

4 高校間格差とは



※写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

1) 自分の学校に対する誇り

**多少とも学校
に誇りをもつ
生徒は41%**

ランクによって、大学進学や社会的な成功に開きが認められるのは、考え方によっては、当然ともいえよう。なぜなら、トップランクの高校には、もともと、学業成績に自信を持つ生徒たちが入学してくるのであるから、放っておいても、むずかしい大学への入学可能性を信じていることができる生徒の比率が高いと予想されるからである。

そこで問題となるのは、そうした生徒たちが集まることにより、入学した生徒の質以上に、Aランクの高校に独特の学校文化が生まれるかどうかであろう。仮に、Aランクの高校に在籍する生徒たちが、進学や将来の成功を媒介として、学校そのものに誇りを持ち、それに対し、B、C、Dランクの生徒たちが、進学の暗い見通しを理由として、学校そのものにひけ目を感じているのであれば、生徒たちの心に、学校間格差意識が芽ばえていると考えられる。

そうした問題をとらえるために、生徒たちに「今の高校の生徒であることに誇りを持てるか」と尋ねてみた。

すでにふれたように、本調査の場合、Dランクといっても、ある程度の水準の高校であるから、高校に「誇りを持てない」生徒は、さほど多くはなかった。しかし、そうはいつでも、「やや」を含めて、「誇りを持てる」割合を、ランク別に集計し直してみると、表18のように、Aランク=55%、Bランク=51%、Cランク=37%、Dランク=28%と、ランクが下がるにつれて、学校に誇りを持てる割合が低下していく。

本サンプルの場合、Dランクの高校でも、学校に対する評価は、「誇りを持てる」とも、持てないともいえない」の程度にとどまっていたが、これが、もう少し、ランクの低い高校

をサンプルとしたなら、「誇りをもてない」に反応する生徒の割合が高くなると予想されよう。

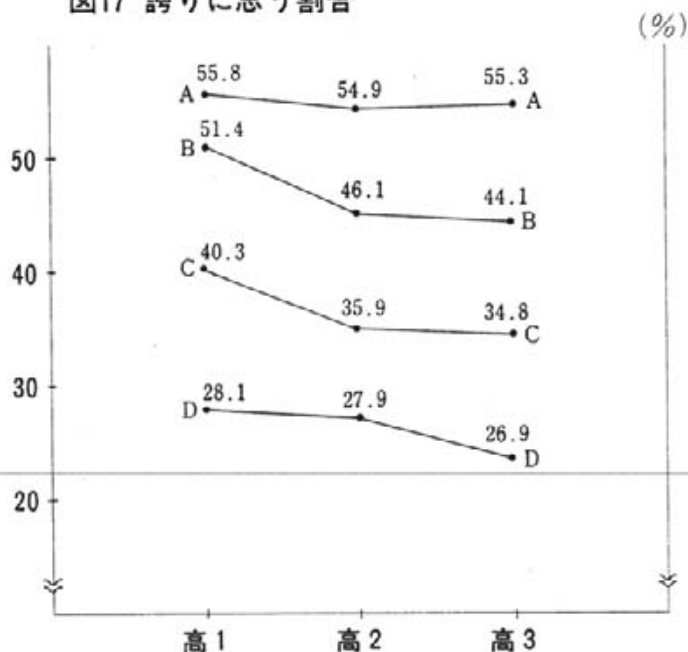
表18 今の高校の生徒であることに誇りを持てるか

	誇りを持っている			何とも いえない	誇りを持ってない		
	とても	かなり	やや		やや	あまり	ぜんぜん
A	11.8	16.6	26.8	27.4	3.3	5.7	8.4
B	8.4	11.7	29.6	32.3	3.1	7.1	7.8
C	4.2	8.0	24.6	38.0	5.7	9.5	10.0
D	2.5	5.2	20.1	41.8	5.2	12.8	12.4
全体	5.5	10.2	25.2	36.1	4.5	8.8	9.7

それと同時に、学年差に着目すると、図17から明らかなように、全体として、高1の生徒が、学校に誇りを持つ場合が多く、学年が上がるにつれて、学校への評価は、やや下降、または、横すべりの状態を示している。入学してみたら、学校の短所も分り、それほど誇りに思えなくなったというのであろうか。少なくとも、高校生活が、学校に対する誇りを増す働きをしていないのはたしかであろう。

学校生活を送るうちに、学校に対する愛着が増すのが、人情と思うのだが、上記の傾向は、高校教育が、生徒たちの心に影響力を持たない、あるいは、否定的な反応を強化する役割を果たしていることを暗示しているように考えられる。

図17 誇りに思う割合



注) 尺度①-③の%

①	②	③	4	5	6	7
とても	かなり	やや	何とも	やや	あまり	ぜんぜん
誇りをもっている				誇りをもてない		

**誇りを支える
のはランクの
みではない**

また図18に、数量化Ⅱ類の技法を用いて、「在籍高校に対する誇り」を規定する要因分析を試みた結果を示した。数量化Ⅱ類についての詳細は専門書にゆずらざるを得ないが、本図では、誇りを促進する要因は、中央から右側のプラスの数値となってあらわされ、誇りを阻害する要因は、左側のマイナスの数値として示されている。

この図から、いくつかの解釈ができるが、主要な傾向を読みとるなら、以下の通りとなろう。

- ① A、B、C、Dと、学校のランクが下がるにつれて、誇りをもてなくなる。
- ② 高1、高2、高3と、学年が上がるにつれて、学校に対する評価が下がり始める。
- ③ クラブ活動をしている生徒は、入っていない生徒より、学校に誇りを抱いている。
- ④ 家庭学習をせず、テレビばかりみている生徒は、学校に誇りを感じていないが、見たいテレビをがまんして、勉強をしているタイプの生徒は、学校を誇りにしている割合が高い。

①～④の傾向の中で、注目をひくのは、③と④の結果であろう。なぜなら、たしかに、①のように、学校に対する誇りが、在籍高校のランクにより規定されているのは否定しがたいが、③と④によれば、ランクだけが誇りを支えているのではないからである。

数量化Ⅱ類のカテゴリー・スコアは加算できる性格を備えているので、念の為に、簡単な計算を行なってみると、

Aランクの高校に在籍しているが(0.48)、クラブに入らず(-0.26)、家庭でまったく勉強をせず(-0.42)、卒業後は、やさしい大学へでも入ろうと思っている生徒(-0.48) = この生徒のスコアは、-0.68。

② Dランクの高校にいるが(-0.54)文化部に入り(0.16)、毎日3時間程度勉強をして(0.32)、むずかしい大学入学を目指している生徒(0.35) = この生徒のスコアは、プラス0.29。

の通り、Aランクの生徒よりDランクの生徒の方が、学校に誇りを抱く事例が生じてくる。

大づかみにすると、学校に対する誇りは、①ランク、②クラブなどのような学校への帰属意識、③本人の生活習慣の確立の3つの領域から構成されているともいえよう。

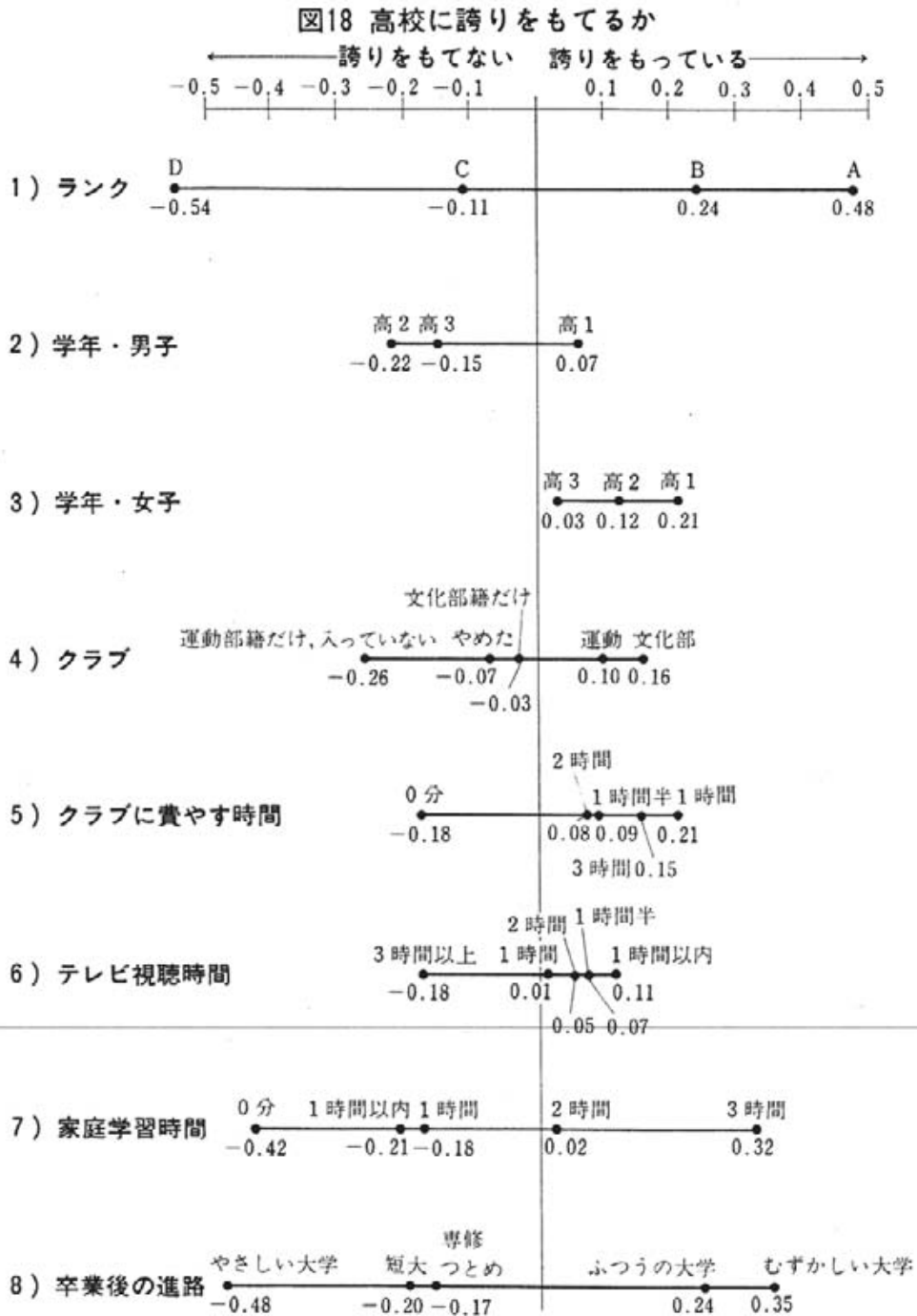
なお、アイテムごとの説明力を意味する偏相関係数の大きさは、

1	ランク	0.237	注) 偏相関係数
2	将来の進路	0.127	数多くの独立変数のうち、1つの独立
3	学年、性	0.105	変数と従属変数との関係の強さを表わす
4	勉強時間	0.082	ものであって、そのさい他の独立変数を
5	クラブの所属	0.059	一定とし、その影響を受けないようにし
6	クラブの長さ	0.051	て計算された、相関係数である。
7	テレビ視聴の長さ	0.040	

で、学校に対する誇りの中で、ランクの占める説明力は、ほぼ34%程度にとどまっていた。

もちろん、こうした試算は、あくまで、仮定をつみ重ねた上での数値であって、実際には、B、C、Dランクの高校より、Aランクに在籍する生徒の方に、長い時間、家庭学習に打ち込み、入試のむずかしい大学を目指す者の占める割合が多かろう。したがって、全体としてみると、ランクの高い高校に在籍する生徒に、学校に誇りをもつ者が多いと考え

られる。しかし、今までの分析は、そうしたランクの他に、生徒自身の心構えなどが加わったときに、学校に誇りをもつことを明らかにしている意味で、興味をひくデータと考えられる。



2) 誇りを支える要因

学校に対する社会的な評価

今までふれてきたように、在籍高校に対する誇りが、高校のランクのみで支えられていないのはたしかだが、とはいえ、全体として量的に把握した場合、トップランクの高校の生徒の方に、学校に誇りを持つ割合が多かった。

そこで、そうした学校に対する誇りが、どういう要因によって支えられているのかを、もう少し掘り下げてみよう。

表19は、「伝統がある学校」から「このところ、内容の充実が目立つ学校」までの8項目を示して、この点について「あなたの学校を、あなたの町の人たちはどう見ていると思いますか」と尋ねた結果である。

表中の数値の示すように、「伝統のある学校」を除く、7つの項目では、A、Bランクの高校とC、Dランクの高校とに、反応が2分され、

- ① A、B、特にAランクの高校に目につく傾向＝「非行生徒が少なく」、「まじめな生徒が多く」、「良い先生がたくさんいて」、「勉強のできる生徒の多い」、「内容の充実した学校」
- ② C、D、特にDランクの高校に認められる傾向＝「勉強のさほど得意でない」、「のんびりとした」、「スポーツの得意な生徒の多い学校」

のような傾向が得られている。

つまり、A、Bランクの生徒たちは、「いわゆる良い大学への進学率が高く、勉強の得意な子が多い」と、自分の高校に対する社会的な評価をとらえているのに対し、C、Dランクの生徒は、「のんびりとした学校」という社会的な評価が、自分の高校に対して定着しているのを感じている。

表19 在籍高校に対する社会的な評価 (%)

		A	B	C	D	全体
伝統がある学校(と)	思われている	70.3	60.6	51.5	69.7	62.0
	思われていない	15.4	28.4	33.7	9.5	23.4
勉強のできる生徒が多い学校(と)	思われている	88.9	76.9	35.9	21.4	53.6
	思われていない	4.1	7.1	42.7	39.8	26.1
まじめな生徒が多い学校(と)	思われている	80.8	66.5	33.9	36.7	51.9
	思われていない	8.2	11.9	38.0	24.7	23.2
非行生徒が少ない学校(と)	思われている	80.3	73.6	35.6	41.0	54.7
	思われていない	12.6	13.5	38.6	32.0	26.3
良い先生がたくさんいる学校(と)	思われている	69.4	54.3	22.9	9.9	37.6
	思われていない	12.0	17.2	39.5	47.2	30.2
のんびりとした生徒の多い学校(と)	思われている	10.3	31.5	32.7	58.2	32.9
	思われていない	74.4	44.6	37.6	16.4	43.6
内容の充実が目立つ学校(と)	思われている	51.7	34.7	20.6	13.5	29.4
	思われていない	20.8	27.4	47.0	55.5	38.7
スポーツの得意な生徒の多い学校(と)	思われている	9.3	21.2	17.1	30.1	18.3
	思われていない	75.2	38.8	44.0	39.4	49.7

注) 表中の数値は、下記の尺度の内、思われている = 1 + 2、思われていない = 4 + 5

1	2	3	4	5
かなり	やや	はんぶん	あまり	ぜんぜん
そう思われている		はんぶん	そう思われていない	

3) 地域の中での評価

地域の中での 尊敬と軽視の 視線

高校に対するこうした社会的な評価を、さらに、つきつめて、あなたの地域の人々は、あなたが現在の高校の生徒だということがわかると、どんな態度をとることが多いですか」と尋ねてみた。「とても尊敬するような態度をとる」から「とても軽視するような態度をとる」までの7段階尺度で反応を求めたところ、表20・図19のような結果が得られている。

サンプル全体としては、「すこし尊敬する」が、約半数の48%に達する。また、ランク別に集計してみると、「とても」「かなり」尊敬してもらえると答えた者の割合は、Aランクの49%から順に、28%、13%、7%の通りである。すでにふれたように、本サンプルの場合、Dランクといっても、それなりの評価を得ている高校であるから、「軽視される」割合は、「とても」「かなり」に限るなら、5～6%にとどまっている。

表20 地域の人々はあなたがあなたの高校の生徒だと分ると、どんな態度をとるか (%)

	軽視する態度			尊敬する態度		
	とても	かなり	すこし	すこし	かなり	とても
A	3.9	1.7	7.1	38.5	28.9	19.9
B	1.8	1.9	9.7	58.8	20.0	7.8
C	2.5	4.8	32.7	47.0	10.0	3.0
D	1.9	3.2	36.6	51.7	5.7	0.9
全体	2.6	3.2	22.8	48.0	15.7	7.7

図19 地域の人たちからの評価 (%)

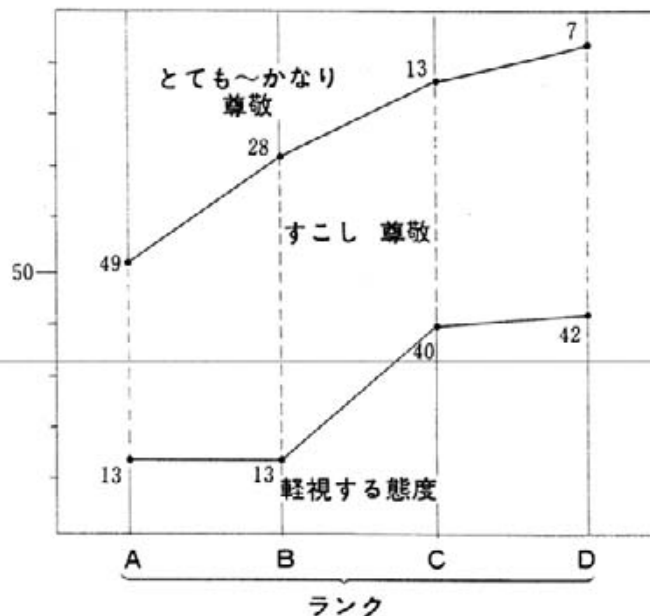
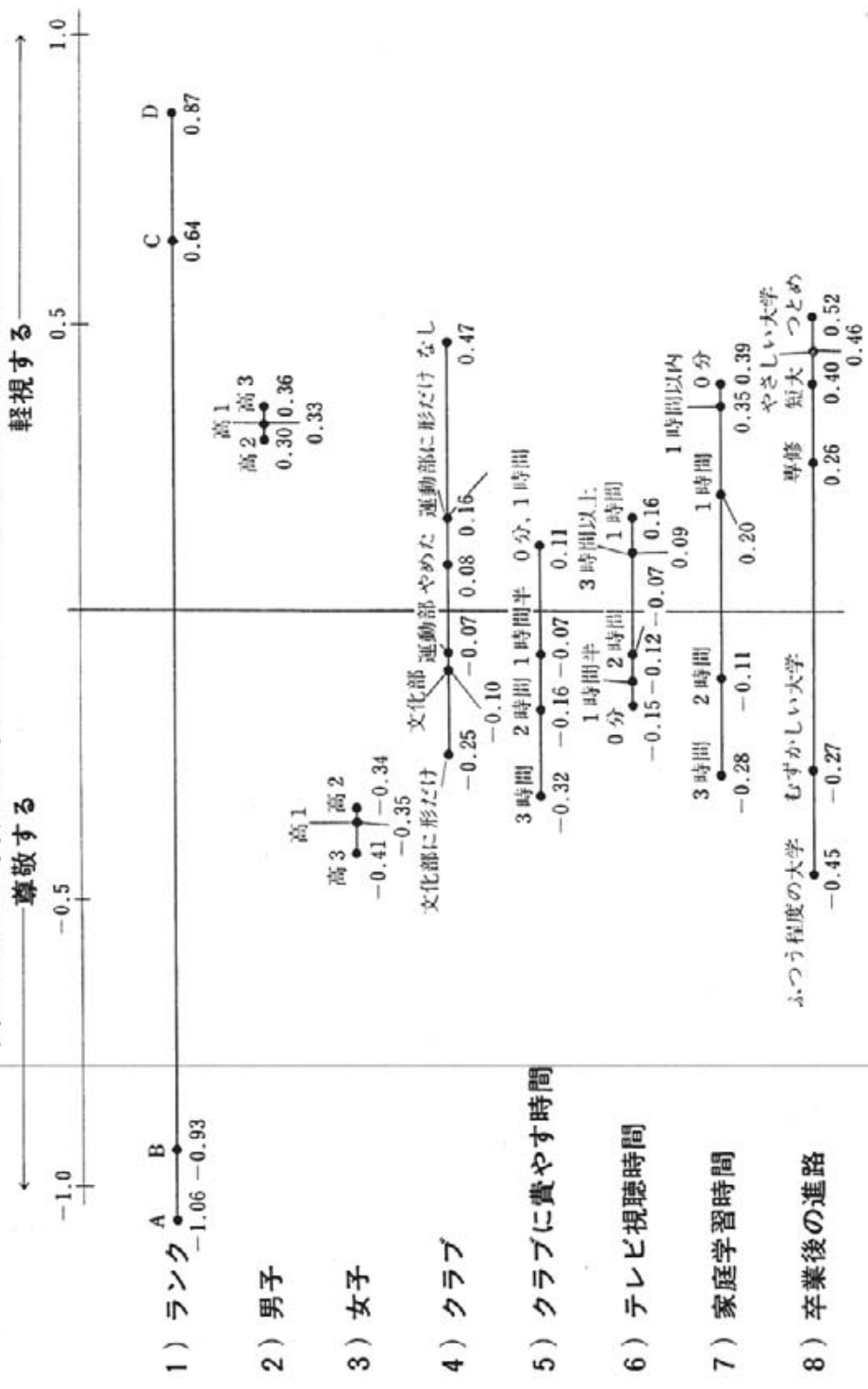


図20 あなたの高校の生徒だと分ると地域の人はどんな態度をとるか



なお、図20に、高校に対する社会的な評価を支える要因分析の結果を示した。カテゴリ一・スコアから明らかのように、A、Bランクに在籍している高校生は、社会的に良い評価を得ていると思っているのに反し、C、Dランクの生徒は、在籍高校が社会的に軽視されているという感じを抱いている。こうした結果は、今までのデータからもうかがえるが、それと同時に、図20によれば、①クラブ活動に打ち込んでいるか、それとも、②まじめに勉強をしている者ほど、学校が社会的に高い評価を得ているという感じを抱いている。

ということは、同じ高校に在籍している生徒でも、自分に自信を持つ生徒ほど、学校が高く評価されていると感じている計算になる。

考えてみると、われわれの通常の行動にしても、自分に自信を持てる時は、まわりの人たちが親切で、しあわせなように感じられるが、ひげ目を持つ時は、人々が冷たく、時には、自分に対して敵意を抱いているような気持になる。それと同じように、Aランクの高校に在籍し、そして、まずまずの成績をとっている生徒は、社会の人たちから一目置かれている感じを抱けるのに対し、ランクの低い高校の生徒で、しかも、勉強に怠けがちだったりすると、ランクに、学力面でのひげ目が加わった感じで、その高校の生徒であることに冷たい視線が向けられていると思うのであろう。

4) 教師の質

ランク間で教師評価の違い

こうしたデータから察すると、高校間格差の実態は、ランクの持つ社会的な評価と生徒の主観的な意識との相乗作用の上に成り立っているように考えられる。

表21は、表22を見やすい形でまとめたものだが、これは、生徒たちに、「あなたの学校には、次のような先生がどのくらいいますか」と尋ねた結果を示している。表から単純に結論をひき出すと、Aランクに近づくにつれて、「専門的な知識を持ち、熱心に授業をしてくれる上に、わからないところをわかりやすく教えてくれる、ひとりの人間として尊敬できる、そして、ひとりひとりの悩みを聞いてくれる先生」が多くなると、生徒たちは答えている。

正直なところ、Aランクに、「専門的な知識を持つ教師」が多いだろうとは予想していた。それと同時に、C、Dランクに、「悩みを聞いてくれたり」、「ひとりの人間として尊敬できる」教師が多いのではとも考えていた。Aランクの高校には、学力の高い生徒が多いから、専門的な知識をしっかりと持っていないと、授業ができないだろう。それに対し、C、Dランクの高校では、授業の進度や深さよりも、個々の生徒への個人的な対応が必要となるから、人間味の豊かな教師が増えるのではと考えたからである。

表21 次のような先生は10人中5人以上いるか

(%)

	A	B	C	D
熱心に授業をしてくれる先生	55.2	43.0	31.8	28.0
専門的な知識を持つ先生	58.3	45.2	28.0	25.8
ひとりの人間として尊敬できる先生	22.0	14.7	5.2	4.5
クラブ活動などに熱心な先生	16.4	18.1	15.7	15.0
ひとりひとりの悩みを聞く先生	22.2	15.2	7.6	6.1
わからないところをわかりやすく教えてくれる先生	45.9	38.8	27.0	22.7

表22 先生に対する評価

(%)

		10人中 10人とも	7～8人	5～6人	3～4人	1～2人	ひとりも いない
熱心に授業をして くれる先生	A	15.2	24.7 (39.9)	15.3 (55.2)	16.1 (71.3)	21.3 (92.6)	7.4 (100.0)
	B	10.8	17.2 (28.0)	15.0 (43.0)	21.0 (64.0)	28.7 (92.7)	7.3 (100.0)
	C	7.0	10.9 (17.9)	13.9 (31.8)	23.8 (55.6)	35.9 (91.5)	8.5 (100.0)
	D	5.0	9.9 (14.9)	13.1 (28.0)	22.3 (50.3)	41.0 (91.3)	8.7 (100.0)
	全体	9.5	15.2 (24.7)	14.3 (39.0)	21.1 (60.1)	32.0 (92.1)	7.9 (100.0)
専門的な知識を しっかりと	A	18.3	24.8 (43.1)	15.2 (58.3)	16.3 (74.6)	19.2 (93.8)	6.2 (100.0)
	B	10.9	17.7 (28.6)	16.6 (45.2)	20.7 (65.9)	27.3 (93.2)	6.8 (100.0)
	C	4.6	10.7 (15.3)	12.7 (28.0)	24.1 (52.1)	38.9 (91.0)	9.0 (100.0)
	D	3.2	8.3 (11.5)	14.3 (25.8)	25.2 (51.0)	41.8 (92.8)	7.2 (100.0)
	全体	8.8	14.9 (23.7)	14.4 (38.1)	21.8 (59.9)	32.5 (92.4)	7.6 (100.0)
ひとりの人間として 尊敬	A	5.9	7.2 (13.1)	8.9 (22.0)	15.6 (37.6)	39.6 (77.2)	22.8 (100.0)
	B	2.8	4.9 (7.7)	7.0 (14.7)	13.6 (28.3)	46.1 (74.4)	25.6 (100.0)
	C	1.0	1.6 (2.6)	2.6 (5.2)	11.2 (16.4)	50.0 (66.4)	33.6 (100.0)
	D	0.7	0.9 (1.6)	2.9 (4.5)	10.2 (14.7)	48.2 (62.9)	37.1 (100.0)
	全体	2.5	3.4 (5.9)	5.0 (10.9)	12.5 (23.4)	46.4 (69.8)	30.2 (100.0)



(%)

		10人中 10人とも	7～8人	5～6人	3～4人	1～2人	ひとりも いない
クラブ活動などの指導に熱心な先生	A	2.8	3.3 (6.1)	10.3 (16.4)	21.8 (38.2)	42.3 (80.5)	19.5 (100.0)
	B	3.2	4.3 (7.5)	10.6 (18.1)	23.4 (41.5)	42.0 (83.5)	16.5 (100.0)
	C	1.1	3.3 (4.4)	11.3 (15.7)	25.1 (40.8)	46.9 (87.7)	12.3 (100.0)
	D	1.6	3.7 (5.3)	9.7 (15.0)	26.0 (41.0)	48.6 (89.6)	10.4 (100.0)
	全体	2.0	3.5 (5.5)	10.6 (16.1)	24.2 (40.3)	45.2 (85.5)	14.5 (100.0)
ひとりひとりの生徒の悩みを聞く先生	A	5.2	7.3 (12.5)	9.7 (22.2)	15.5 (37.7)	37.3 (75.0)	25.0 (100.0)
	B	4.0	4.7 (8.7)	6.5 (15.2)	15.6 (30.8)	42.9 (73.7)	26.3 (100.0)
	C	1.1	1.6 (2.7)	4.9 (7.6)	13.8 (21.4)	47.7 (69.1)	30.9 (100.0)
	D	1.2	1.7 (2.9)	3.2 (6.1)	9.1 (15.2)	45.1 (60.3)	39.7 (100.0)
	全体	2.7	3.6 (6.3)	6.0 (12.3)	13.6 (25.9)	43.8 (69.7)	30.3 (100.0)
すぐ教えないところをわかりやすく教えてくれる先生	A	12.9	17.5 (30.4)	15.5 (45.9)	21.8 (67.7)	23.2 (90.9)	9.1 (100.0)
	B	10.2	15.0 (25.2)	13.6 (38.8)	24.4 (63.2)	27.5 (90.7)	9.3 (100.0)
	C	4.2	8.7 (12.9)	14.1 (27.0)	24.7 (51.7)	37.5 (89.2)	10.8 (100.0)
	D	4.8	5.6 (10.4)	12.3 (22.7)	24.0 (46.7)	43.0 (89.7)	10.3 (100.0)
	全体	7.5	11.4 (18.9)	14.0 (32.9)	23.8 (56.7)	33.2 (89.9)	10.1 (100.0)



しかし、残念ながらそうした仮説は崩れ、授業面に限らず人間的な面についても、Aランクに近づくほど、生徒たちから信頼されている教師の比率が高かった。教員の適正配置という観点からすると、A、Bよりも、C、Dランクの高校に、「人間として尊敬できる先生」や「悩みを聞いてくれる先生」が欲しい気持ちがするが、それに反する結果が得られたのは、表中の数値が示す通りである。

この結果について、何人かの高校の先生方に感想を求めてみた。反応はさまざまであったが、大別すると、この結果を肯定する人と否定する人とに分れた。肯定した教師たちの意見は、おおむね以下の通りであった。小・中学校と異なり、高校は教員異動が少なく、その上、Aランクの高校には、伝統的に、教師としての力量の秀れた先生が多いので、そうした教師たちがリーダーとなって、教師集団の力量が高まってくる。そうした事情を考えると、表22のような結果も、納得できるという。

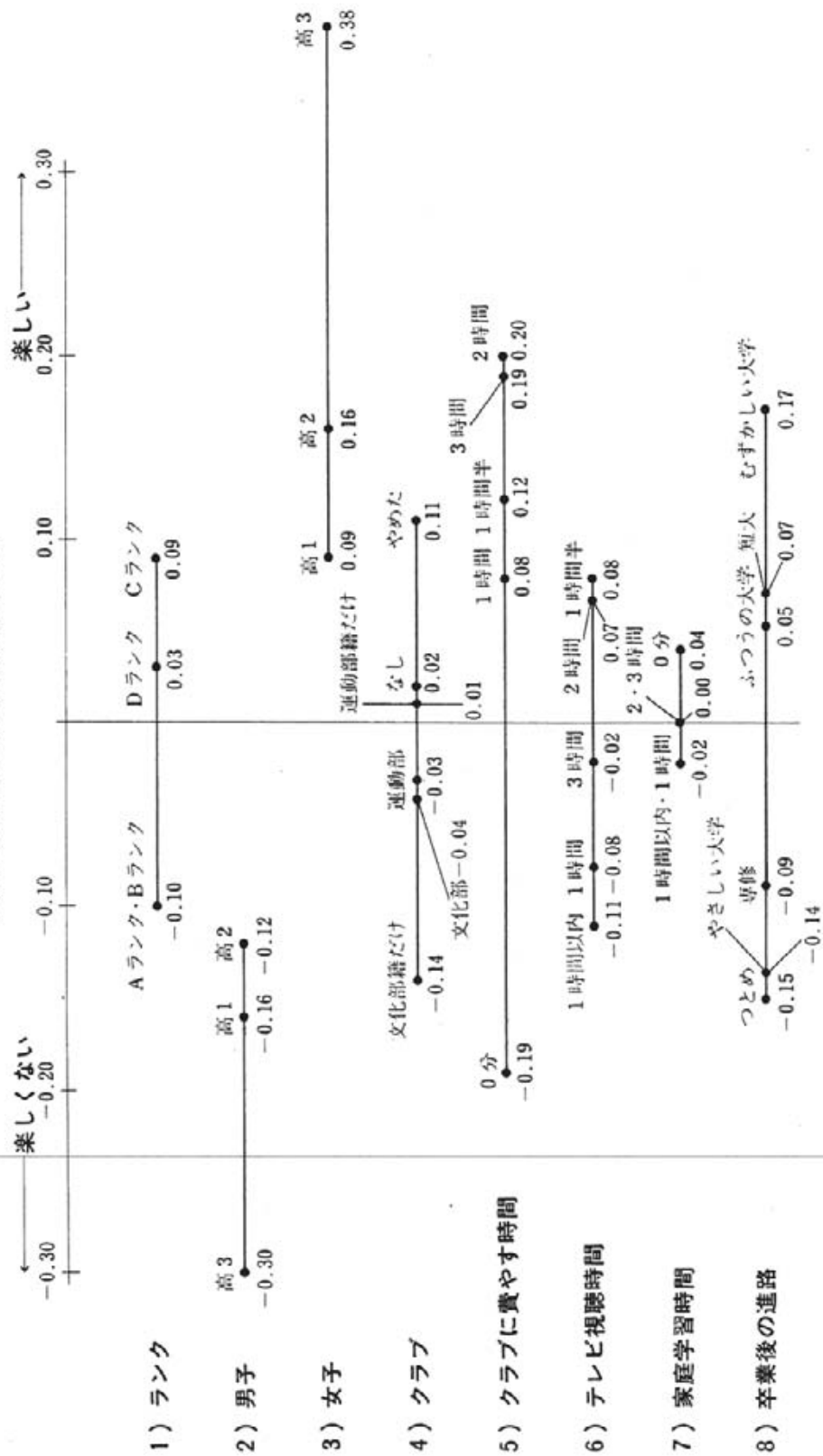
それに反し、否定論を展開した人たちは、「教師としての力量に、さほどの開きはないと思う。しかし、Aランクの生徒たちは、将来の目標がしっかりしているので、教師としても、生徒を信頼できる。それに、生徒の学力が高いので、怠けていたのでは、生徒の知的な探究心を満足させられない。これが、Dランクの場合、むずかしい授業をすると、生徒が嫌がるし、生徒の自主性を認めると、だらしなくなりがちで、教師としても、つい管理的な態度をとらざるをえない。だから、表22のような結果は、教師の力量というより、生徒集団の質の差がもたらしたものだ」という論旨である。

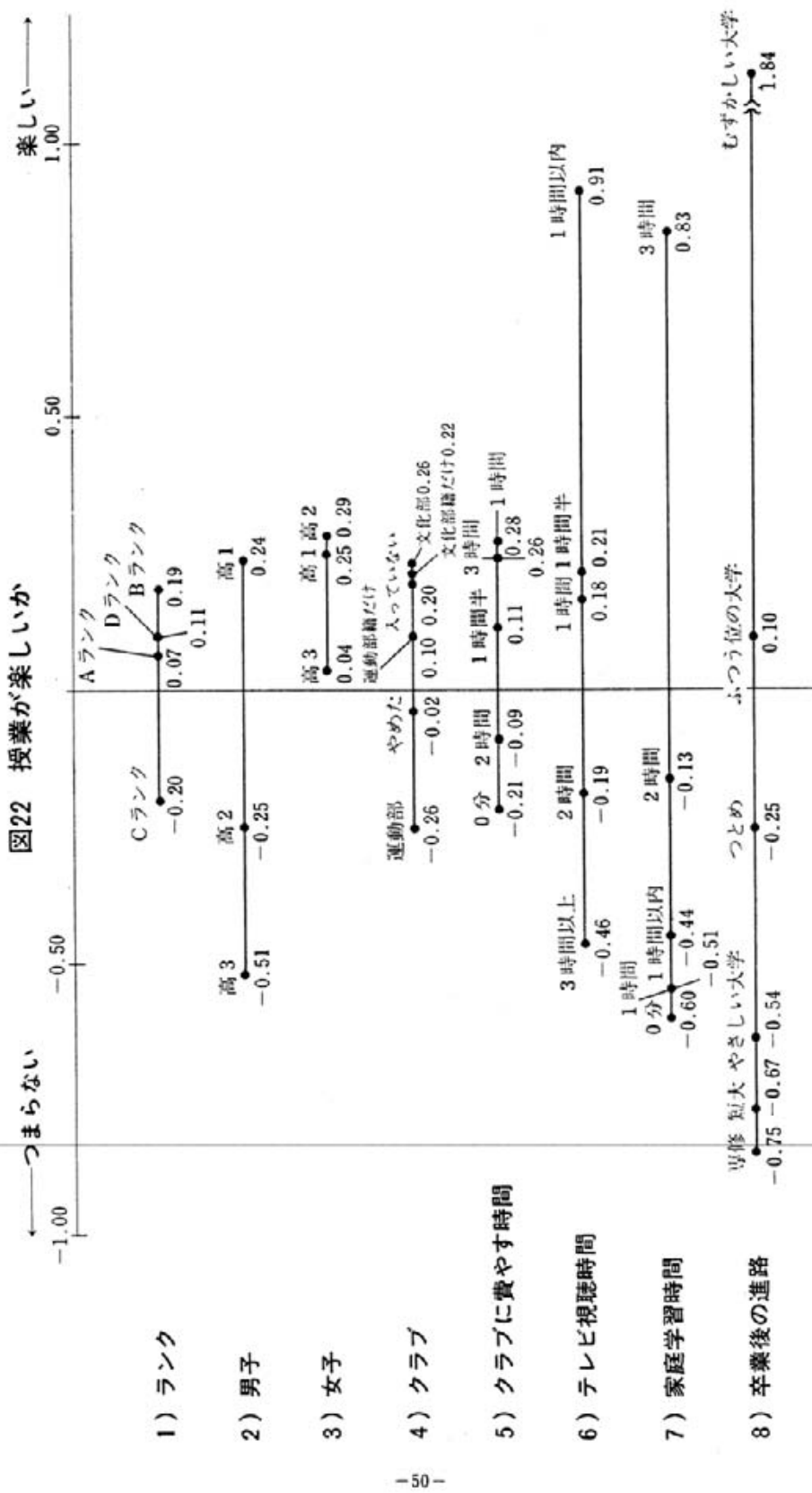
しかし、否定論の論旨でも、生徒たちの質が教師を向上させることになるから、結果として、肯定論と同じような状況があらわれてくる。したがって、否定論は、教師の指導力の高校間格差がどうして生ずるのかの背景を述べたもので、表22のような傾向が存在するのを否定したとはいえない。

となると、背景はともかくとして、ランクの高い高校ほど、指導力の秀れた教師に恵まれる可能性が強いという結論になる。

入学者側から考えて、ランクの高い高校ほど、将来に希望を持ち、進学に目標を定めた生徒の占める割合が高い。そして、そうした生徒の希望に添う形で、教師の指導力も充実している。こうした生徒と教師との人間関係が相乗された形で、心理的な意味での高校間格差が生まれ、それが、何年となく蓄積されることによって、格差の社会的な評価が定着してくるのであろうか。

図21 友だちと会うのが楽しいか





5) ランクとは何か

インプットされる 生徒の質がランク を生み出す

そうはいっても、すでに紹介した結果によれば、学校に対する充足感などの面では、高校間の格差は、さほど生じていなかった。したがって、基本的には、どこの高校へ在籍したとしても、高校そのものの授業はややたいくつで、友だちがいるから高校生活が楽しい、という性格は変わらないのかもしれない。ただし、ランクの高い高校ほど、目標を持って生活している生徒の占める比率が高い。いわば、そうしたインプットされる生徒の質によって、いわゆる格差が生ずるとというのが、高校間格差の実態のように考えられる。そこで、もう一度、すでにふれた学校生活の楽しさのデータに戻って、こうした考え方が、データの上で裏づけられるかどうかをたしかめてみたい。

図21は、すでに表13で紹介した「友だちと会う楽しさ」を、数量化II類を使って分析した結果を示している。この中で興味をひくのは、

① 友だちと会うのが楽しい

女子、特に、高3で、毎日のようにクラブ活動をしている生徒

② 友だちと会うのが楽しくない

男子、特に、高3で、クラブ活動をまったくしていない生徒

の通りで、高校間のランクが、ほとんど説明力を持たない事実であろう。つまり、どこの高校であろうと、友だち関係の持つ重みは、学校による開きは認められないのである。

それと同じように、図22に示した「授業の楽しさ」についても、

① 授業が楽しいという生徒

入試のむずかしい大学を目指して、見たいテレビを見ずに、毎日3時間以上、勉強している生徒。

② 授業がつまらないという生徒

大学進学を考えていない、家庭に帰ってもまったく勉強をせず、テレビばかり見ている生徒

のような傾向が得られている。そして、ランクの説明力が低いのは、図中の数値が示す通りである。仮に、大学進学を目標とする生徒が、みんな授業に楽しさを感じられるのであるなら、C、Dランクより、A、Bランクの生徒の方が、授業が楽しいと答える可能性が大きかろう。しかし、ランクの持つ説明力が小さかったのは、すでに述べた通りである。したがって、授業に楽しさを感じられるかどうかを支えているのは、大学進学についての意欲の強さで、ランクに限って言えば、Aランクより、B、Cランクの学校に在籍している生徒の方が、わずかながら、授業の楽しさを感じている割合が高い。つまり、同じ程度に進学に意欲を燃やしている場合なら、B、Cランクの高校にいる生徒の方が、授業に魅力を感じているのである。

こうした「友だち」や「授業」の面からすると、ランクは、ほとんど意味を持たないものであるが、図23のように、「高校へ通う楽しさ」となると、A、B、C、Dのランクが、ある程度、ものをいい始める。社会的な評価を生徒たちが意識することが、そうしたランクに反映されるのかもしれない。しかし、項目ごとの説明力ともいうべき偏相関係数に着目すると、

1. ランク 0.146
2. 将来の進路 0.127
3. 家庭学習の長さ 0.112
4. 学年・性 0.068

5. クラブ活動の長さ 0.068

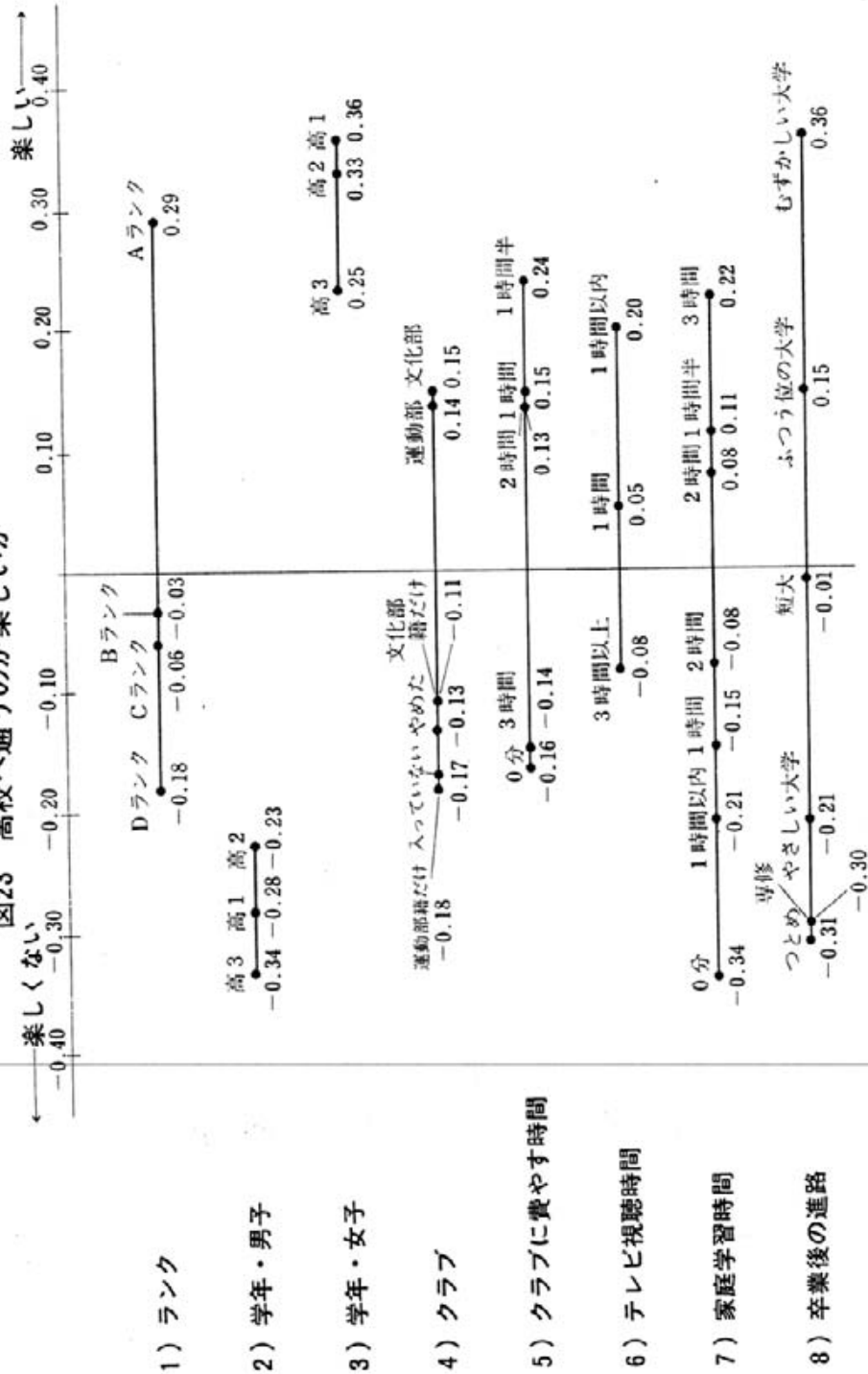
6. クラブへの所属 0.058

7. テレビ視聴の長さ 0.047

の通りで、ランクの持つ説明力は、全体の2割程度にすぎなかった。

こうした一連のデータを重ね合わせてみると、高校間格差は、すでにのべた仮説の通りには、学校そのものから起因するというより、特定の学校に意欲を持つ生徒が相対的に集まってくることに、主たる源泉を見出せるように考えられる。

図23 高校へ通うのが楽しいか



生徒たちの 自己像

そこで、こうした仮説を、さらにたしかめるために、それぞれの学校に、どのようなタイプの生徒が入学しているのかを考えてみることにしたい。

表23は、「あなたは、今の若者（ヤング）として、どんなタイプですか」と尋ねた結果を示している。アンケート用紙の上では、心理的な抵抗感を少なくするために、「ぜんぜんそう思わない」を左端に置き、「とてもそう思う」を右端に置く尺度を使用した。表中では、読みとりの便利を考慮して、尺度を逆転させて作表してある。

全体として、「友だちが多い」、「じっくりつきあえば、自分の良さをわかってもらえる」、「心の優しさを持っている」などに、自信を持つ生徒が多い反面、「人の倍は勉強をしている」、「学力が高い方だと思う」、「少し努力すれば、東大や京大へ入れる能力を持っている」など、学力面で、自信を失っている生徒が少なくない。

そこで、表23の中から、自分に自信を持つことを示す「とてもそう思う」に着目して、ランク別の集計結果を示すと、表24の通りとなる。

表中にアンダーラインを付したので明らかなように、「とてもそう思う」と答えた生徒の割合がもっとも高いのがAランクの高校で、提示した20の項目のうち、「親せきは仲良く行き来している」、「親せきは高学歴」、「友だちが多い」、「将来に野心を抱いている」の4つを除く、16の項目で、最大値を示した。

表23 生徒の自己評価

項目は平均値の順位 (%)

	そう思う			そう思わない		
	とても	すこし	小計	あまり	ぜんぜん	小計
親せきは仲良く行き来している	27.5	41.0	68.5	24.0	7.5	31.5
友だちをたくさん持っている	23.9	44.7	68.6	25.8	5.6	31.4
じっくりつきあえばよさがわかる	16.0	49.5	65.5	26.1	8.4	34.5
心の優しさは人一倍ある	15.7	43.1	58.8	32.7	8.5	41.2
将来に野心を持っている	21.4	26.8	48.2	35.8	16.0	51.8
逆境をはねかえす力がある	13.3	37.8	51.1	36.5	12.4	48.9
父親は社会的な成功者	12.2	35.8	48.0	37.7	14.3	52.0
親せきは高学歴	14.2	27.6	41.8	40.6	17.6	58.2
ユーモアのセンスがある	9.3	31.6	40.9	42.5	16.6	59.1
体力に自信がある	8.1	24.2	32.3	43.4	24.2	67.7
運動神経がよい	7.2	26.8	34.0	40.7	25.3	66.0
両親は高学歴	6.8	24.2	31.0	46.2	22.8	69.0
家庭は経済的に豊か	3.6	22.4	26.0	51.8	22.2	74.0
リーダーシップがある	4.3	16.9	21.2	50.6	28.2	78.8
高校生としては読書家	7.7	17.7	25.4	34.2	40.4	74.6
ナウなルックスをしている	4.9	10.2	15.1	44.8	40.1	84.9
高校生としては学力が高い	4.0	13.7	17.7	40.2	42.1	82.3
ヤングの中では異性にもてる	4.1	7.8	11.9	42.4	45.6	88.1
東大や京大へ入れる能力がある	6.1	8.2	14.3	19.4	66.3	85.7
勉強は人の倍努力している	1.9	4.0	5.9	31.9	62.2	94.1

表24 自己表価×ランク

—は、「とてもそう思う」の最大値(%)

	とてもそう思う			
	A	B	C	D
親せきは仲良く行き来している	27.4	24.8	28.1	29.2
友だちが多い	23.0	19.3	24.7	27.3
地味なよさがある	20.9	14.1	14.1	15.3
心の優しさは人一倍ある	21.3	15.9	13.2	13.5
将来に野心を持っている	28.3	25.8	24.9	29.3
バイタリティがある	17.6	13.6	11.7	10.7
父親は社会的な成功者	15.3	12.8	9.8	12.3
親せきは高学歴	14.1	14.8	13.9	14.0
ユーモアのセンスがある	13.5	9.3	7.0	8.4
体力がある	10.7	9.6	7.1	5.4
運動神経がよい	10.9	8.3	5.8	4.1
両親は高学歴	11.2	6.9	4.7	5.3
家庭は経済的に豊か	25.3	21.8	20.4	23.1
リーダーシップがある	7.3	4.8	2.9	2.7
高校生としては読書家	10.2	8.1	6.2	7.2
ナウなルックスをしている	8.1	4.9	3.6	3.4
高校生としては学力が高い	9.1	3.4	2.1	1.9
ヤングとしては異性にもてる	7.5	5.1	2.3	2.3
東大に合格できる	12.9	6.2	3.5	2.3
勉強は人一倍努力している	3.5	2.3	0.9	1.2

この項目の作成にあたり、Aランクの生徒たちは学力などに自信を持っていよう。しかし、C、Dランクの生徒たちも、学力とは違った面で、それなりの自負心を抱いているのではと仮定していた。中でも、「心の優しさは人一倍持っている」、「ユーモアのセンスがある」、「ナウなルックスをしている」、「ヤングとしては異性にもてる」などの項目は、Aランクよりも、C、Dランクの生徒に、「とてもそう思う」の反応が多いただろうと予想して、加えたものであった。しかし、学力などは、むろんのこと、上述したような「優しさ」や「ユーモア」などの面でも、C、DランクよりBランク、そして、BランクよりもAランクの生徒に、「とてもそう思う」の比率が高かったのは、表中の数値の示す通りである。

激しい受験競争に勝ち抜いて、Aランクの高校へ入学できた。そうした自信が、学力のみでなく、「逆境をはねのける力」や「リーダーシップ」、そして、「ユーモア」や「ナウなルックス」に対する自信へと波及効果を及ぼしたのであろう。

こうしたとらえ方をしてみると、ランクが上がるにつれて、学力はむろんのこと、その他の面でも、自分に自信と誇りを持てる。つまり、アイデンティティーの確立された生徒の割合が高まると考えられる。

**生徒たちの
自尊感情**

そこで、もう少し、生徒たちの心情へ踏みこむために、9つの項目を示して、「この2～3ヵ月の間に、次のような気持がしたことがありますか」と尋ねてみた(表25)。巻末の調査票の24に示したように、生徒たちの気持をありのままに引き出すために、設問文は、順不同の形で配置してあるが、それらを領域別に集計したのが、表25である。

設問文は、自尊感情を軸として構成されており、自分にプライドを持ち、認知の欲求を強く抱いている場合と、自尊心を欠き、自我の喪失状況に陥っている場合とを想定して作成してある。

表25 次のような気持になったことがあるか

—この2～3ヵ月の間— (%)

	そう思う			何回か ある	1～2度 ある	1度も ない
	いつも	わりと	ときどき			
頼りになる人間だと思われたい	8.1	10.9	15.8	19.9	20.3	25.0
人の役に立つ人間だと思われたい	7.5	9.8	15.6	21.7	19.2	26.2
友だちの中で人気者になりたい	5.6	7.9	12.8	18.2	20.4	35.1
優秀であると人から思われたい	5.1	7.7	15.0	17.9	20.6	33.7
自分を意志の弱い人間だと思う	14.8	14.4	16.2	21.4	18.8	14.4
どこか遠くへ行きたいと思う	11.7	8.8	12.2	15.0	18.2	34.1
今日は学校へ行きたくない	10.0	10.0	12.6	25.1	25.7	16.6
先生から関心を持たれていない	8.0	8.0	10.7	17.7	19.9	35.7
気持を分ってくれる友がいない	5.3	5.4	11.2	16.2	22.5	39.4

表26 次のような気持になる×ランク

—は最大値 (%)

	A	B	C	D
頼りになる人間だと思われたい	24.2	18.4	15.4	18.2
人の役に立つ人間と思われたい	24.2	15.9	13.9	16.2
友だちの中で人気者になりたい	14.4	13.2	12.1	14.9
優秀であると人から思われたい	19.3	13.0	10.0	9.5
自分を意志の弱い人間だと思う	35.0	28.1	26.6	27.9
どこか遠くへ行きたいと思う	17.5	18.2	21.6	24.2
今日は学校へ行きたくない	15.8	18.1	20.8	25.2
先生から関心を持たれていない	16.0	16.2	15.3	18.1
気持をわかってくれる友がいない	11.7	11.6	9.7	10.4

注) 表中の数値は下記の尺度①+②の占める割合

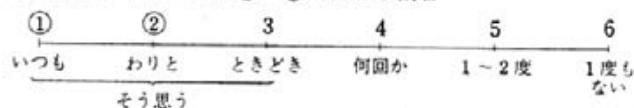


表26の数値が示すように、ランク別の集計を試みると、Aランクの生徒たちは、他のランクの高校生と比べ、「人の役に立つ、頼りになる、優秀な人間だと思われたい」という気持ちを、有意に高く抱いている。そうした反面、そうした目標へ、思ったほど近づけないことへの反省からであろうが、「自分を意志の弱い人間だと思う」比率も高まっている。それに反し、C、Dランク、特にDランクの生徒の間に、「どこか遠くへ行きたい」、「今日は学校へ行きたくない」、「先生から関心を持たれていない」など、逃避的な気持ちを持つ割合が高い。

こうした結果を、すでに紹介した生徒たちの自己評価とつなぎ合わせて考えると、自分に自信を持ち、社会的承認の欲求を強く抱いている生徒がAランクの高校に多く、それに対し、自信を欠き、ひげ目を感じている生徒が、Dランクの高校に多いといえよう。

自己像の構造

そこで、生徒たちのランク別の類型化を試みるため、先に紹介した自己評価の20のアイテム(表23)を用いて、数量化Ⅲ類での分析を試みた。

各々のアイテムについて、「そう思う」を①、「そう思わない」を②とカテゴライズし、20アイテム×2カテゴリーで、40アイテム・カテゴリーを、平面上に分布させると、図24のような結果が得られる。

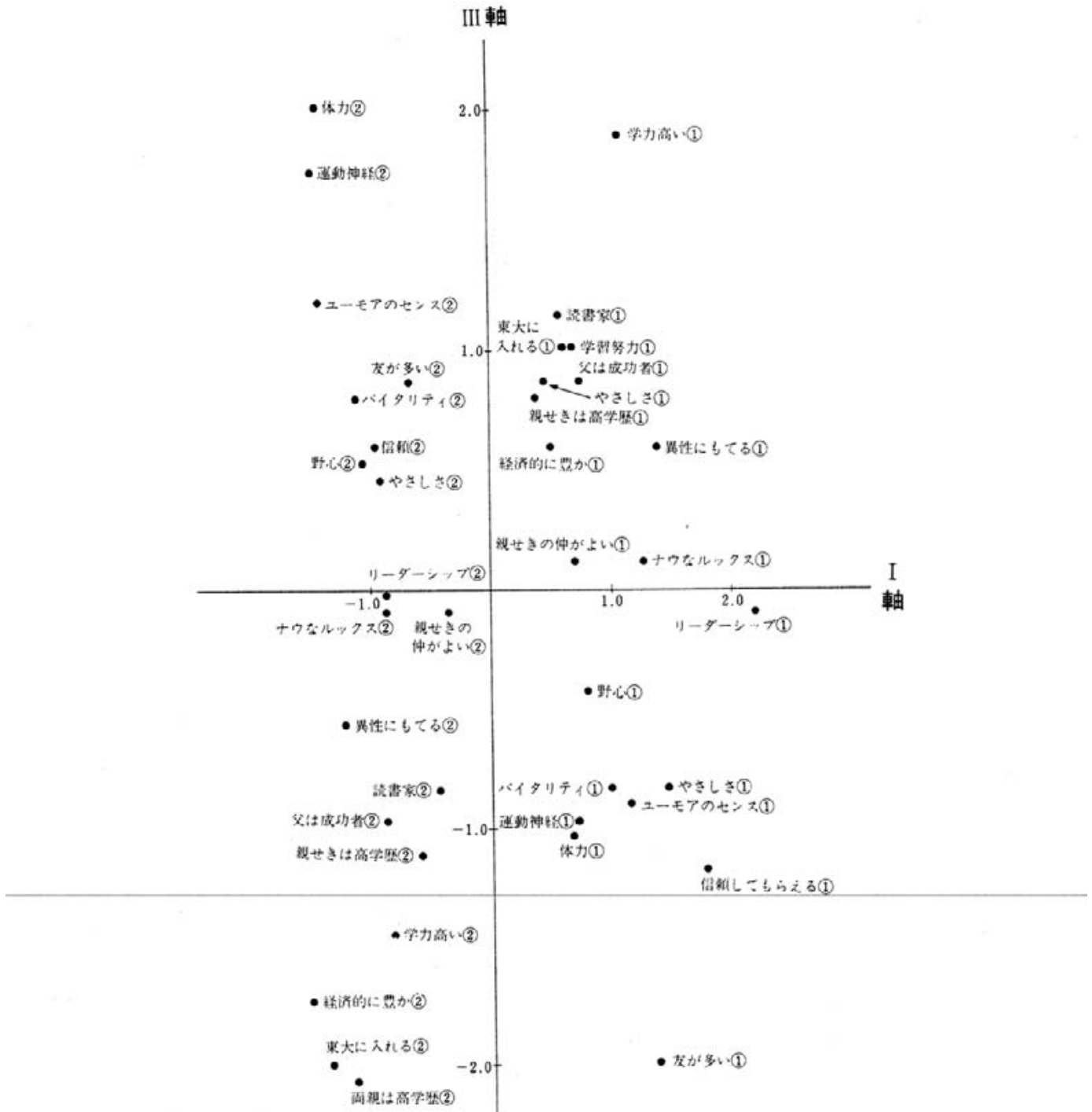
この中から、Ⅰ軸、Ⅲ軸のそれぞれについて、プラスとマイナスのカテゴリー・ウェイトの大きなものを選び出したものが、表27である。Ⅰ軸のプラスの方向は、「リーダーシップを持っている」、「信頼してもらえる」、「異性にもてる」などの属性から構成されているので、これを、「リーダーシップがある」ととらえてみたい。それに対し、Ⅰ軸のマイナス方向は、「体力がない」、「異性にモテない」、「経済的に豊かでない」など、自信のなさをあらわしているのので、プラス面との対称を考えて、「リーダーシップに欠ける」と考えておこう。また、Ⅲ軸は、プラスの面に、「体力に欠けるかもしれないが、学力が秀れ、学習努力を重ねている」、マイナスに「東大合格はおぼつかなく、学力も低い」があらわれているので、「学力が高い-低い」の軸と解釈しておきたい。

こうしたⅠ軸とⅢ軸とを交差させ、平面的に生徒の類型を作ると図25のように第1象限に「リーダーシップもあって、学力の高い」学級委員タイプの生徒が位置することになる。以下、第2象限に「孤立型」、第3象限に「学業不振型」、第4象限に「人気者」が位置する。

このようにして作成した平面上に、ランク別のサンプル・スコアをのせたのが、図26である。図から明らかなように、A、Bランクの高校生は「学級委員タイプ」、C、Dランクの生徒は「学業不振タイプ」に属している。そして、それぞれの象限の中では、Aランクの高校生は、Bランクより、「学力が高いが、やや孤立型」のいわゆる優等生タイプに近づき、Dランクの高校生は、Cランクより、学業成績にひげ目を感じ、自分に自信を持ってない度合いが強まってくる。

ここらで、今まで紹介してきた結果の要約を行なっておこう。すでにふれたように、高校生活そのものについては、ランクによる開きは、ほとんどといってよいほど認められなかった。しかし、Aランクの学校に、学業成績の良さを支えとして、自分に自信を持ち、一流大学進学を目指す生徒の割合が多く、それに対し、C、Dランクへ移るにつれて、学力に自信を欠くと同時に、自分に誇りを持ってない生徒の占める比率が高い。いわば、そうしたインプットされる生徒の質が、そのまま生徒集団の質を規定し、それが、蓄積されて、学校に対する社会的な評価となり、その評価が、生徒たちに反映されて、学校の校風となる。そして、そうした過程を通して蓄積された総体が、高校間格差の実態のように考えられる。

図24 自己評価のカテゴリー・ウエイト表



注) 各アイテムの①は肯定的、②は否定的な反応

表27 自己評価のカテゴリー・ウエイト

		I 軸		III 軸	
ブ ラ ス	1	リーダーシップあり ①	2.21	体力がある ②	2.00
	2	地味なよさ ①	1.83	学力が高い ①	1.89
	3	優しい ①	1.51	運動神経がよい ②	1.75
	4	異性にモテル ①	1.44	ユーモアがある ②	1.18
	5	友だちが多い ①	1.42	読書家 ①	1.14
	6	ナウなルックス ①	1.31	勉強は人一倍 ①	1.01
	7	バイタリティがある ①	1.20	東大に合格できる ①	0.98
マ イ ナ ス	1	経済的に豊か ②	-1.50	両親は高学歴 ②	-1.99
	2	運動神経がよい ②	-1.47	東大に合格できる ②	-1.95
	3	体力がある ②	-1.44	友だちが多い ①	-1.92
	4	東大に合格できる ②	-1.36	経済的に豊か ②	-1.66
	5	異性にモテル ②	-1.21	勉強は人一倍 ②	-1.65
	6	両親は高学歴 ②	-1.14	学力が高い ②	-1.37
	7	勉強は人一倍 ②	-1.09	地味なよさ ①	-1.17

図25 自己評価の類型

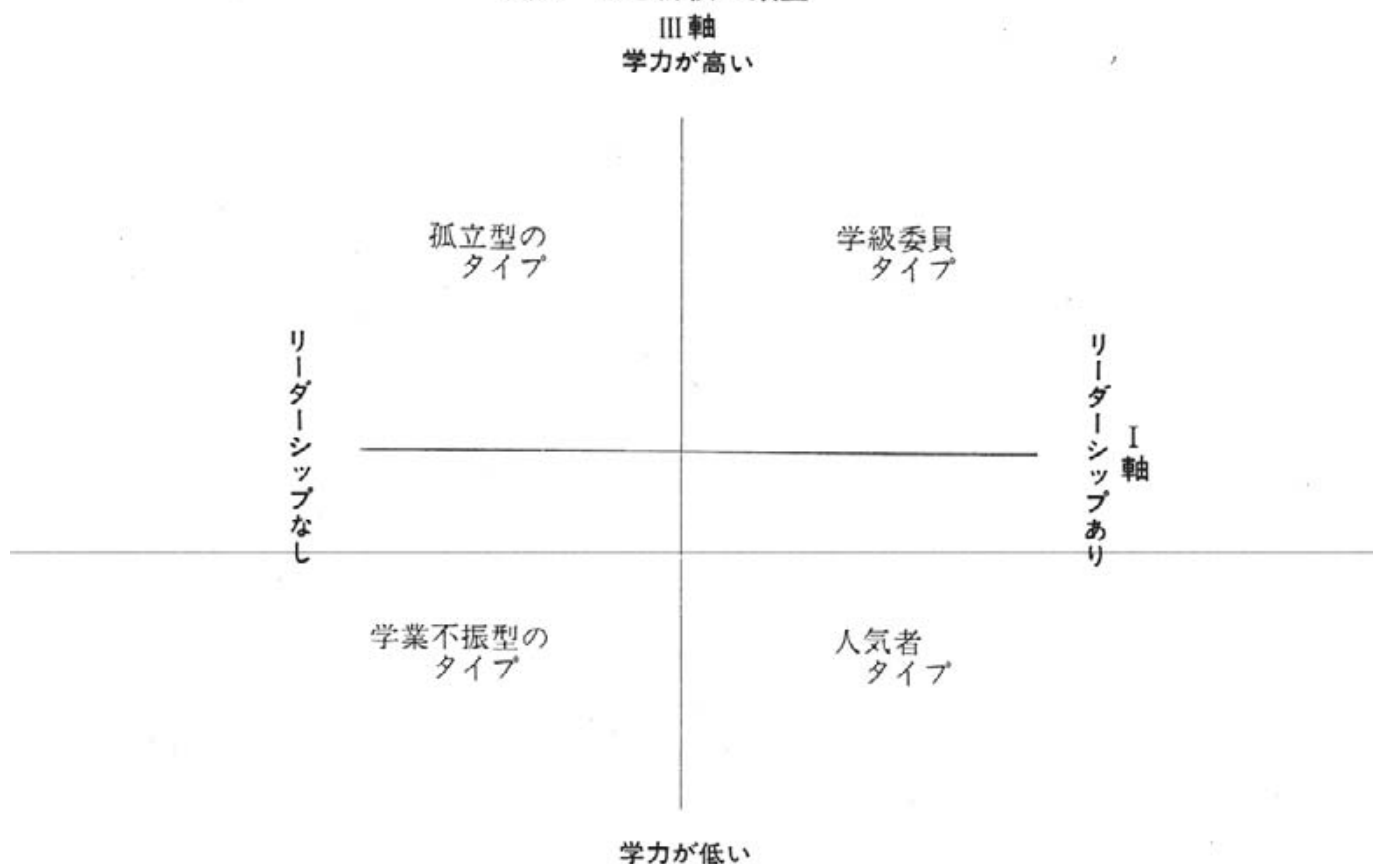
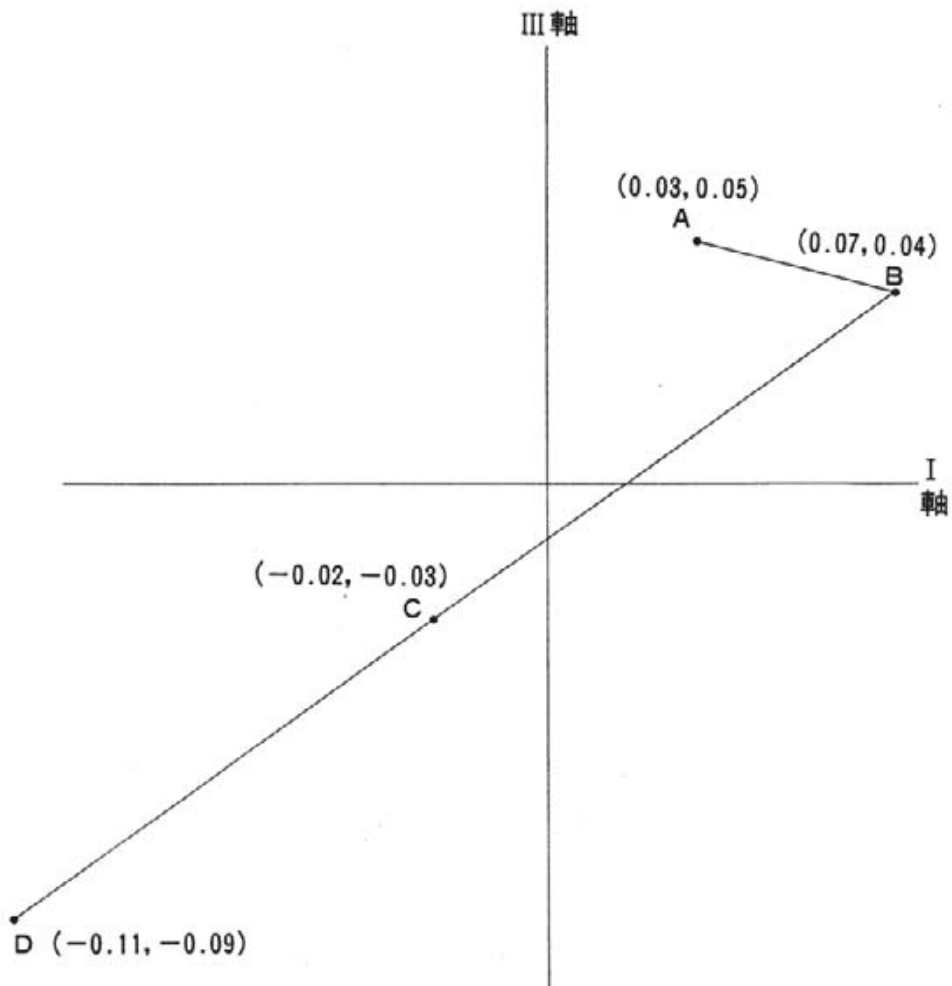


図26 ランクのサンプル・スコア



高校卒業の 効用

それでは、高校間格差を前記のようにとらえた場合、生徒たちは高校を卒業することの意味をどのようにとらえているのであろうか。

表28に掲げたような15の内容を提示して、「いまの高校を卒業するとどんな面でトクをするように思いますか」の形で、高校卒業の効用を尋ねてみた。全体として、「スポーツの能力を伸ばせそう」、「3年間の高校生活をエンジョイできる」、「一生つきあえる友だちができる」など、人間的に充足した時を持てることを高校生活のメリットとしてあげ、「高校を卒業した後との関連で、高校在籍の意味をとらえる」態度は少ない。もっとも、彼らは、まだ高校に在籍しているので、卒業後のことまで、気持ちをめぐらす余裕がないのが、当然なのかもしれない。

しかし、表29から明らかのように、高校卒業の効用を、ランク別に集計してみると、Aランクの高校の生徒に、「適切な進路指導を受けられるし、やる気のある友が多いので、一流大学へ入りやすいだけでなく、卒業後も、先輩や友だちが便宜をはかってくれるし、世間の人から尊敬してもらえそうだ」というような高校卒業の効用を認める態度が目につく。それに対し、Dランクの生徒たちに、「便宜を図ってもらえる機会は少ないだろう」と、高校卒業の効用を否定する者が多い。

そこで、このような効用の項目を用いて、数量化Ⅲ類による類型化を試みると、図27のような結果が得られる。先ほどの自己評価についての分析と同じように、X軸、Y軸に関してカテゴリー・ウェイトの大きなものを、それぞれ7つとり出して、軸を支える意味を考えると(表30)、X軸は、「効用がある(プラス)ーない(マイナス)」、Y軸は、「社会的な成功(プラス)ー人間的な充足(マイナス)」を意味するように思われる。

表28 高校卒業の効用

(%)

	そう思う		そう思わない	
	とても	すこし	あまり	ぜんぜん
クラブに入り、スポーツ能力をつける	27.5	38.0	22.3	12.2
3年間の高校生活をエンジョイ	23.4	42.6	21.9	12.1
高校生活の楽しい思い出が残る	17.6	40.0	30.2	12.2
一生つきあえる友ができる	16.7	49.5	26.4	7.4
高卒の資格がもらえる	11.8	32.3	34.6	21.3
適切な進路指導を受けられる	8.0	40.6	38.6	12.8
忍耐力が育つ	7.7	30.3	45.3	16.7
友人が社会的に成功するから便利	6.1	29.9	44.7	19.3
後輩とのつながりができる	4.8	22.5	45.4	27.3
先生が相談相手になってくれる	4.4	23.4	47.2	25.0
やる気のある友に感化される	4.1	25.0	48.6	22.3
校風が身につく	4.0	22.1	47.1	26.8
先輩が便宜を図ってくれる	3.8	25.0	48.6	22.6
世間から尊敬してもらえる	2.2	28.5	50.9	18.4
一流大学へ入る学力が身につく	2.2	13.6	40.5	43.7

表29 高校卒業の効用

(%)

	とても 思う					ぜんぜん 思わない				
	A	B	C	D	全体	A	B	C	D	全体
スポーツ能力を伸ばせる	24.2	27.2	29.9	27.6	27.5	14.3	6.8	12.2	13.3	12.2
3年間の高校生活をエンジョイ	20.1	23.1	24.0	26.7	23.4	21.7	10.9	9.4	5.4	12.1
楽しい高校生活がよい思い出	17.4	16.6	18.4	17.1	17.6	14.8	10.6	11.6	11.7	12.2
一生つきあえる友ができる	16.4	15.3	16.7	18.6	16.8	9.9	6.2	7.5	5.3	7.4
高卒の資格がとれるだけでよい	11.7	9.4	11.7	14.6	11.8	31.7	22.2	18.0	13.8	21.3
適切な進路指導を受けれる	15.9	10.2	4.5	2.9	8.0	10.0	8.9	15.0	15.8	12.8
苦しい高校生活が忍耐力を育てる	10.2	7.9	7.0	5.8	7.7	17.5	14.7	16.8	17.5	16.7
社会的に成功した友がいるから便利	15.4	6.1	2.3	1.9	6.1	13.3	16.7	21.6	24.8	19.3
先輩とのつながりができる	6.4	5.7	4.2	3.1	4.8	26.6	21.0	28.2	32.5	27.3
高校の先生に相談にのってもらえる	7.5	5.8	3.0	1.6	4.4	21.7	19.4	26.2	32.0	25.0
やる気のある友に感化される	9.2	4.6	1.5	2.3	4.1	18.6	18.2	25.7	24.6	22.3
校風が人格形成にプラス	6.5	6.3	2.1	2.6	4.1	28.0	21.1	28.6	27.2	26.8
先輩がなにかと便宜を図ってくれる	6.9	4.3	2.4	2.0	3.8	20.0	19.3	23.8	25.7	22.6
世間の人から尊敬してもらえる	7.8	3.9	1.4	0.6	3.2	13.7	15.6	20.6	22.9	18.4
一流大学へ入りやすい	6.0	2.0	0.7	0.4	2.2	17.0	28.9	55.8	67.8	43.7

図27 高校卒業の効用のカテゴリー・ウエイト表

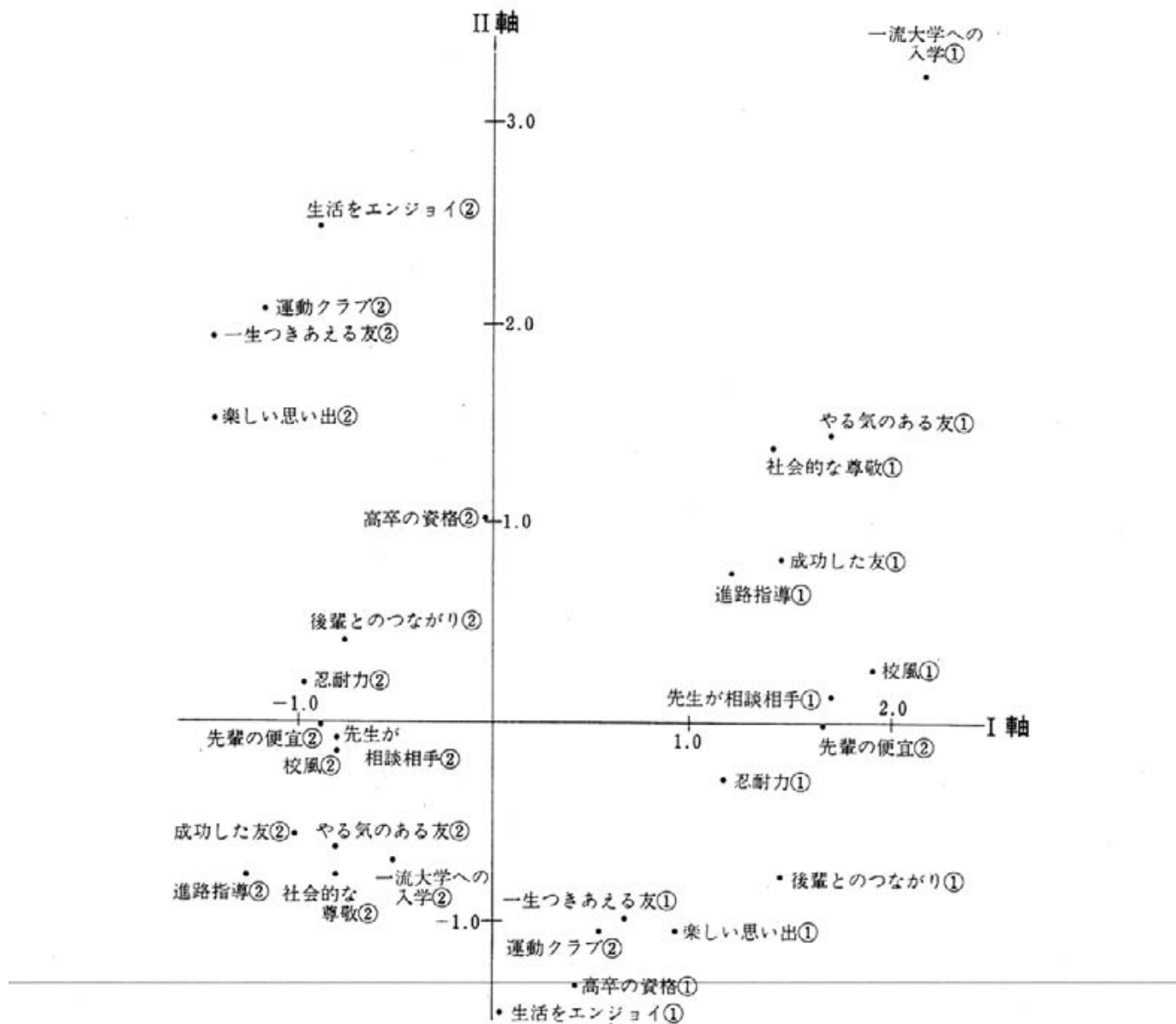
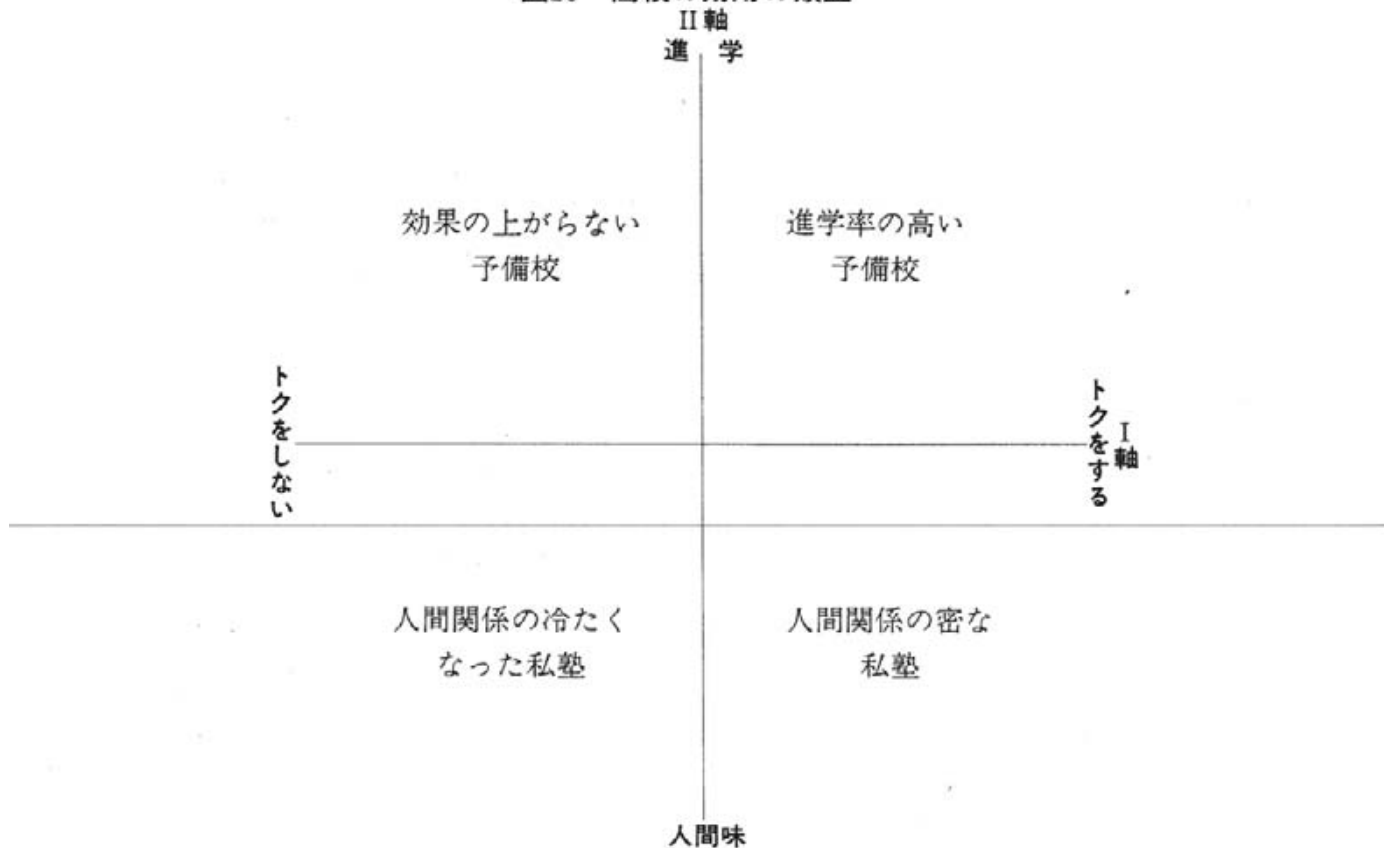


表30 高校卒業の効用—カテゴリー・ウエイト

		I 軸		II 軸	
ブ ラ ス	1	一流大学入学①	2.11	一流大学入学①	3.10
	2	校風が身につく①	1.86	生活をエンジョイ②	2.42
	3	よく勉強する①	1.68	スポーツ②	1.97
	4	先生が相談相手②	1.67	一生つきあえる友②	1.85
	5	先輩の便宜①	1.63	楽しい思い出②	1.50
	6	後輩とのつながり①	1.42	よく勉強する①	1.37
	7	友人の便宜①	1.40	世間からの尊敬①	1.36
マ イ ナ ス	1	一生つきあえる友②	-1.34	高卒の資格①	-1.38
	2	楽しい思い出②	-1.34	生活をエンジョイ①	-1.26
	3	進路指導②	-1.19	楽しい思い出①	-1.02
	4	スポーツ②	-1.09	スポーツ①	-1.00
	5	友人の便宜②	-0.94	一生つきあえる友①	-0.91
	6	忍耐力が育つ②	-0.89	世間からの尊敬②	-0.74
	7	先輩の便宜②	-0.82	進路指導②	-0.74

注) ①=トクをすと思う
②=トクをすと思えない

図28 高校の効用の類型



そこで、各々の軸を交差させると、図28のように、第1象限は、進学の可能性を保証してくれる「予備校」、第4象限は、人間関係の充実した楽しい「私塾」となる。そして、こうした平面上にサンプル・スコアをのせると、Aランクの高校は、進学の見通しはつけてくれるが、人間味に乏しい「予備校」、そして、B、C、Dと、ランクが進むにつれて、やや人間味はますものの、進学の見通しのつかない「私塾」のような性格が強まってくる。(図29)。それと同時に、学年が上るにつれて、学校の効用を否定する態度がますます目につく傾向である。

高校についてのこうした効用を反映するかのように、「あなたの学校に、次のような後輩から、入学の相談を受けたら、入学をすすめるかどうか」を尋ねたところ、表31のような結果が得られた。

Aランクの高校生が入学をすすめるタイプ=就職希望でない、負けずぎらいで、コツコツと努力するタイプの医師や弁護士を目指す後輩。

Dランクの高校生が入学をすすめるタイプ=特に、すすめるということはないが、しいていえば負けずぎらいで、コツコツと努力するタイプに。医師や弁護士を目指すタイプの後輩には、他の学校を進学するようにという。

したがって、Aランクの生徒たちが、マジメな後輩の入学をすすめるのに対し、Dランクでは、そうしたタイプの後輩は、もっと可能性を伸ばせる学校を目指せと、自分の学校への入学を、むしろ、否定する態度にでる。こうした形で、それぞれのランクに応じて、後輩が入学してくるから、すでにふれたランクごとの特色が、来年、そして、さ来年と持続され、ランクの社会的な評価が固定されていくことになる。

図29 高校の効用のサンプル・スコア

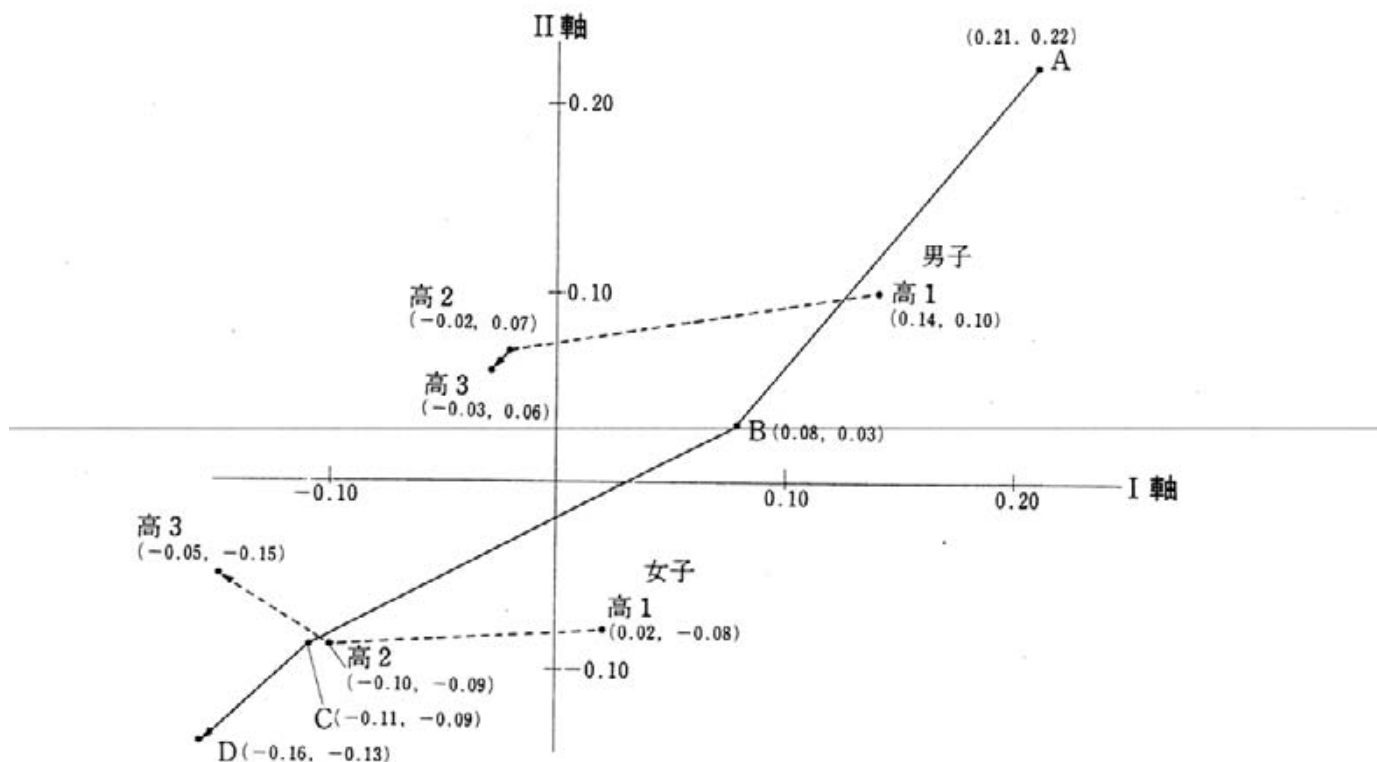
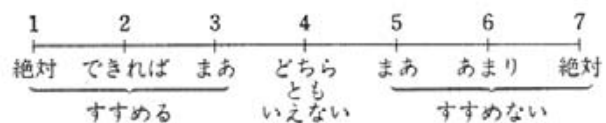


表31 後輩に入学をすすめるか

(%)

		タイプ	A	B	C	D	全体
ぜったい 自分の学校を (A)	負けすぎらいでバリバリ		37.3	33.9	23.3	12.3	26.5
	まじめにコツコツ		33.8	29.2	18.4	9.2	22.3
	医師や弁護士を目指す		34.6	26.8	14.7	3.3	19.6
	能力はあるが気の弱い		15.8	18.5	10.3	5.5	12.2
	スポーツの得意な		11.5	17.4	11.1	9.8	12.1
	のんびり型で能力も乏しい		7.4	11.3	8.3	8.8	8.7
	就職希望の		5.9	8.9	9.5	7.6	8.4
よその学校へ 行けという (B)	負けすぎらいでバリバリ		8.6	7.7	13.6	19.6	12.5
	まじめにコツコツ		8.0	8.1	18.9	21.6	14.8
	医師や弁護士を目指す		12.8	20.4	44.4	62.5	35.7
	能力はあるが気の弱い		9.5	6.5	11.0	11.4	9.8
	スポーツの得意な		20.6	8.2	11.8	17.6	14.4
	のんびり型で能力も乏しい		18.8	9.8	12.2	11.1	13.1
	就職希望の		34.3	14.7	12.6	10.7	17.9

注) 表中の数値は下記の尺度のA = 1, B = 7の占める割合





5. まとめに代えて

※写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

われわれは、高校間格差とは何なのかをとらえるためにこの調査の実施に踏みきった。そして、データの解釈を終えた現在、高校間格差とは、世間でいうほどの意味を持たないのではないかと思始めている。

なぜなら、偏差値にしたがって、中学3年生たちが、それぞれの高校へ進学する。したがって、トップランクの高校に、数学や英語などの勉強に自信を持つ生徒が、相対的に多く集まってこよう。となると、Aランクの高校になるほど、いわゆる一流大学への進学可能性を信じる生徒の比率が高くなるのが当然の帰結となる。

調査結果の中で、進学や就職をめぐるいわばアウトプットに関する項目で、高校間格差が認められたことは否定できない。しかし、そうした開きは、インプットされた生徒の質の差を考えると、それを拡大したものではなかった。

高校は、大学進学までの通過機関だといわれることが多い。また、ハイ・スクールは灰スクールに通ずるというようなごころあわせも、高校を語る時の批判になりつつある。

この調査の中でも、授業に楽しさを感じられる生徒の割合が、「やや」を含めても、1割弱。教師との語らいに充足感を味わっている生徒は13%という結果が得られている。さきおい、通学が楽しみと答えた生徒は3分の1に達してはいたが、その気持を支えていたのは、友との語らいであった。学校生活の中で、クラスメートとのふれ合いが大きな重みを持つのは、高校にかぎらず、小学校から大学まで、すべての学校に共通する傾向であろう。したがって、友と話している時が楽しいと答えた生徒が84%に達したこと自体は決して非難すべきことではない。しかし、それにしても、授業についての評価があまりにも低すぎる。

そして、そうした授業や教師との接触が、学力に自信を欠きがちなC、Dランクの生徒

に限られるならともかく、A、Bランクに在籍する生徒たちも、授業のつまらなさを訴えていたのは、すでに紹介した通りである。

したがって、Aランクの高校は、学習の可能性に恵まれた生徒たちを収容し、3年間の期間をかけて卒業させるだけの通過機関にすぎないという思いがしてくる。

偏差値によって、進学校が規定される現在の高校受験のあり方を肯定するつもりはないが、仮りに、そうした制度が必要悪だと考えた場合、せめて、Aランクの高校で、生徒たちの心を揺り動かすような授業が行なわれていれば、それなりに救いがある。しかし、データから感じられたのは、素質に恵まれた生徒たちの努力に安住して、教育努力を怠っている高校の姿であった。知的な可能性に恵まれた者を選び抜いて入学させるなら、放っておいても、3年たてば、ある程度の割合で、一流大学へ進学する生徒が生まれる。しかし、それは、高校の予備校化にすぎない。高校というからには、なんらかの意味での教育的な働きかけが必要であろう。

教育的な働きかけに欠けるのではという思いは、C、Dランクの高校についても感じる。Aランクの生徒たちは、「一流大学進学＝社会的な成功」を軸とした生活設計を抱いている。そして、C、Dランクの生徒たちも、Aランクと同じ青写真を抱きながら、それを達成できないのを予感して、将来が閉ざされていると感じている。

さまざまな人生の中に、一流大学を卒業し、大きな企業へ入り、安定した生活を送るような生き方があるのは否定できない。しかし、現在の社会では、それ以外のさまざまな生き方が可能になりつつある。というより、まじめな努力を重ねさえすれば、それなりの人生が開けるのが、現代社会の特色である。

それにもかかわらず、C、Dランクの生徒たちは、一流大学卒が打ち手の小づちにも似た効用があると信じている。それだけに、小づちを持たない自分にひけ目を感じ、自分らしさを確立できないでいる。

そうした生徒たちに、学校は、学歴を頼りにしなくとも、さまざまな生き方が可能なのだと、大学卒神話に代わる人生設計を提出できないでいる。そこまで行かなくとも、生徒たちの心情に共感を持ち、ともに考え、そして、悩む教師の姿は、少なくとも、調査結果から察する限りでは、予想以上に少ないように思える。

そうでなくとも、高校生たちは多感な年齢に属している。テストのたびに、目標とする大学進学が遠のくのかを感じて挫折感を味わったり、頼りとする親友に裏切られ、絶望感に陥ったり、そうかと思えば、異性とのかつき合いがうまく進まず、無力感を覚えたりと、精神的に不安定な生活を送っている。

それでも、Aランクの高校に在籍している生徒たちは、一流大学卒の効用を信じて、努力を重ねているから良いとしても、C、Dランクの生徒たちには、心の支えを与える必要があろう。生徒たちに、それぞれの個性に応じた生き方を見出させる。それこそが、高校教師に課せられた大きな使命のひとつではないだろうか。しかし、残念ながら、生徒たちの心の内に目を向ける教師が少ないのは、すでに述べた通りである。

考えてみると、高校間格差を支えているのは、一流大学を卒業すれば安定した生活が保証されるというような学歴崇拝の感情である。そして、そうした学歴崇拝が崩壊しないかぎり、仮に高校入試にあたって、小学区制をひいたところで、生徒や親たちは、抜け道を探し始める。東京都の場合がそうであったように、私立校へ生徒が殺到し、予備校が栄えるなどの現象が、その一例である。そして、仮に、私立校や予備校がなかったとしても、学校の中に、さまざまな学力の生徒が混在することになるので、高校間格差に代わって、学

校内格差が発生してくる可能性が強い。

高等教育を研究対象とする専門家の間では、学歴の効用は低下しているという見方が定着している。学歴間の賃金格差は縮小の一途をたどっているし、情報化時代の到来を迎え、絶えざる学習が不可欠となり、学歴を持つ意味は、中間地点を通ったことのアかしにすぎなくなりつつある。

それにもかかわらず、なぜか、高校生たちは、学歴神話を信じているし、教師たちも、神話が価値を失っている事実を知らせようとしていないように思われる。

さまざまな生徒の中に、もちろん、難病の治療をしたいという気持から医師となるために、医学部入学を目指して努力する生徒がいてもよからう。それと同時に、きわめつけの調理師の道を目指して、専修学校へ入学する生徒もいる。そして、イラストレーターに進路を定めて、とりあえず、芸術学部への入学を考える生徒もいる。

そのように、それぞれの適性や個性に応じた人生設計を描くことができるのなら、大学進学を基準としたランクなどという概念は、およそ意味のないものとならう。そして、ランクに、こだわりを感じない態度が育ってこよう。

平凡なことのようにだが、個々の生徒の心の内に目を注ぎ、その生徒たちの生き方をともに考える。教師たちに、そうした態度が強まってくれば、高校間格差は、おのずと解消される方向をたどらう。そうした意味で、なによりもまず、生徒の悩みや心情に共感できる教師が、ひとりでも多く育って欲しいという気持を強く抱いた。

調査票見本

昭和55年9月

高校生の価値観についての調査

これは、高校生諸君の気持ちをつかむために作られた調査票です。テストではありませんので、あなたの気持ちを正直に教えて下さい。データはコンピューターで処理され、書いた内容であなた個人あるいは学校にご迷惑をかけることは決してありませんので、よろしくお願いたします。

高校教育研究会

奈良教育大学教授 深谷昌志

東京学芸大学助教授 深谷和子



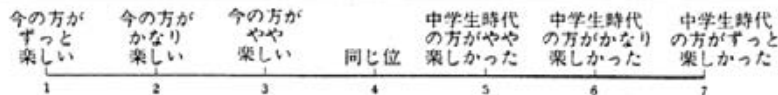
I. まず、あなたご自身のことをお尋ねします。

1 ()立()高校 ()年 男・女(どちらかに○)

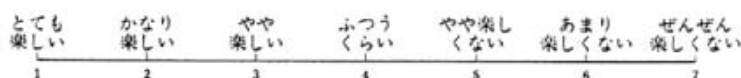
2 あなたはクラブ(課外活動)に入っていますか。1~6のどこかに○をつけてください。

- ① 入ったことはない
- ② 入ったことはあるが、今は入っていない
- ③ 運動部に入り、積極的に参加している
- ④ 運動部に入っているが、どちらかというサボりぎみ
- ⑤ 文化部に入り、積極的に参加している
- ⑥ 文化部に入っているが、どちらかというサボりぎみ

3 中学生時代に比べ、高校生になった今の方が楽しいと思いますか。



4 あなたは、現在、学校へ通うのが楽しいですか。



5 それでは、高校での生活を以下の4つに分けたら、楽しさは何の程度ですか。

	とても 楽しい	かなり 楽しい	やや 楽しい	ふつう くらい	やや 楽しくない	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない
①授業を聞いている時	1	2	3	4	5	6	7
②友だちと話している時	1	2	3	4	5	6	7
③クラブ活動などの面で	1	2	3	4	5	6	7
④先生との関係で	1	2	3	4	5	6	7

6 土日以外のふだんの日には、平均して、以下のようなことに、どれ位時間を費やしていますか。

- ①クラブ活動 () 時間 () 分位
 ②テレビを見るのに () 時間 () 分位
 ③家庭での勉強 () 時間 () 分位

II. もう少しあなたについてうかがいます。

7 あなたは、今の若者(ヤング)としては、どんなタイプですか。

- | | ぜんぜん
そう
思わない | あまり
そう思わない | すこし
そう思う | とても
そう思う |
|--|--------------------|---------------|-------------|-------------|
| ①私は、いまのヤングの中ではナウなルックスをもって
いる(カッコイイ)ほうだと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②運動神経はかなりいいほうにはいるだろう。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③体力ならたいいの人に負けない自信がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④いまの日本の高校生(同学年)の中では、かなり学力が
高い(実力がある)ほうだと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ヤングの中でも異性にモテルほうだろう。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥少し努力すれば東大や京大に合格できる位の能力(頭脳)
を持っていると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ユーモアのセンスは、ちょっとしたものだと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ヤングの間では、どんな場に出てもリーダー的な役割が
つとまると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨じっくりつきあってもらえば、きっと自分のよさがわか
ってもらえて、他人から信頼してもらえと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩どんな逆境(不幸)にあっても、それをほねかえすだけ
のバイタリティを持っていると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪心の優しさや誠実さは、人一倍持っていると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫勉強については、いつも他人の2倍は努力していると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

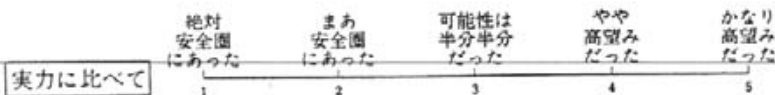
- ⑬私の家は、まあ金持ち（ふつうよりかなり豊かな）のほうに入るだろう。
- ぜんぜん あまり
そう そう
思わない 思わない
すこし とても
そう思う そう思う
- ⑭私の両親は、ふつうより学歴の高いほうに入るだろう。
- ⑮私の父は、社会的には成功者の部に入るだろう。
- ⑯いとこや親せき（叔父や叔母）には、けっこう一流の学校を出た人が多い。
- ⑰親せきは、みな善良で、お互いに仲よく行き来している。
- ⑱友だちをたくさん持っているほうだろう。
- ⑲高校生としては、読書をしているほうだと思う。
- ⑳将来に大きな野心を持っているほうだと思う。

Ⅲ. 次に、中学校の終わり頃から高校入学前後のことをお尋ねします。

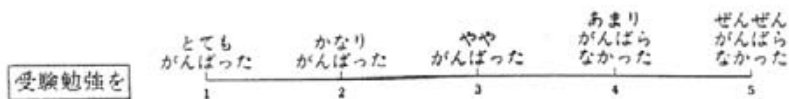
8 あなたが、現在通学している高校は、あなたが入学したいと思っていた学校ですか。

- ①はじめから、ぜひ入学したかった学校
 ②はじめから、かなり入学したかった学校
 ③はじめから、まあ入学したかった学校
 ④はじめは、やや入りたくなかった学校
 ⑤はじめは、あまり入りたくなかった学校
 ⑥はじめは、絶対入りたくなかった学校

9 いまの高校を受験することは、あなたの中学3年の頃の実力から考えてみて、どのくらいの難しさだったと思われますか。



10 いまの高校へ入学するために、あなたはどれくらい（いわゆる）受験勉強をがんばりましたか。



11 あなたは、中学校の3年間を振り返ってみて、自分はよく勉強したと思いますか。

- ①ほとんどしなかった
- ②あまりしなかった
- ③まあまあ人並くらいにはした
- ④十分とは言えないけれどよくやった方に入るだろう
- ⑤精一杯よく勉強した

12 小・中学校の頃、勉強は得意でしたか。

	40人のクラスだとして					
	トップの方 1	4~5番 2	10番位 3	まん中位 4	中の下位 5	うしろの方 6
① 小学 5~6年生の頃	1	2	3	4	5	6
② 中学 1~2年生の頃	1	2	3	4	5	6

13 あなたは、今の高校に入学することが決まったとき、どんな気持ちになりましたか。

- ①これで高校生活が

とても ハッピーに 送れそう	まあ ハッピーに 送れそう	まあ つまらないもの になりそう	とても つまらない ものになりそう
1	2	3	4
- ②これで希望する大学進学が

絶対 かないそう	ほぼ かないそう	まあ ムリだろう	絶対 ムリだろう
1	2	3	4
- ③これで希望する職業に

とても 近づいている	まあ 近づいている	少し 遠のいている	とても 遠のいている
1	2	3	4
- ④これで自分の将来が

とても 開けてきそう	まあ 開けてきそう	まあ 暗くなりそう	とても 暗くなりそう
1	2	3	4

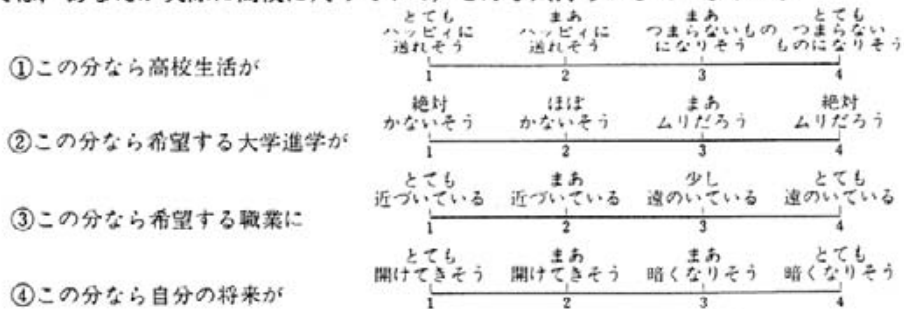
14 あなたが、今の高校へ入学したことは、あなたのご両親の期待にこたえたと思いますか。

期待に	十分に こたえた	かなり こたえた	やや こたえた	あまり こたえ なかった	まったく こたえ なかった
	1	2	3	4	5

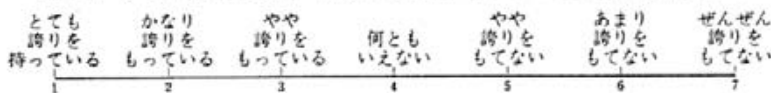
15 もしも、次のようなタイプの後輩が、「あなたの高校」に入りたい。」と相談に来たら、あなたはどんなアドバイスをしてあげたいと思いますか。

- | | 絶対自分の
学校へと
勤める | できれば
勤める | まあ
勤める | どちらとも
いえない | まあ
よそへ
勤める | できれば
よそへ
勤める | 絶対よその
学校へと
勤める |
|-----------------------|----------------------|-------------|-----------|---------------|------------------|--------------------|----------------------|
| ①スポーツの得意な子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ②とてもまじめでコツコツ勉強する子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ③能力はあるが、ちょっと気の弱い子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ④負けずぎらいでバリバリやる子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ⑤のんびりしていて能力もそんなに高くない子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ⑥医者や弁護士を目指してはりきっている子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ⑦卒業したら、(進学しないで) 勤める子 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

16 では、あなたが実際に高校に入ってみて、どんな気持ちがしていますか。



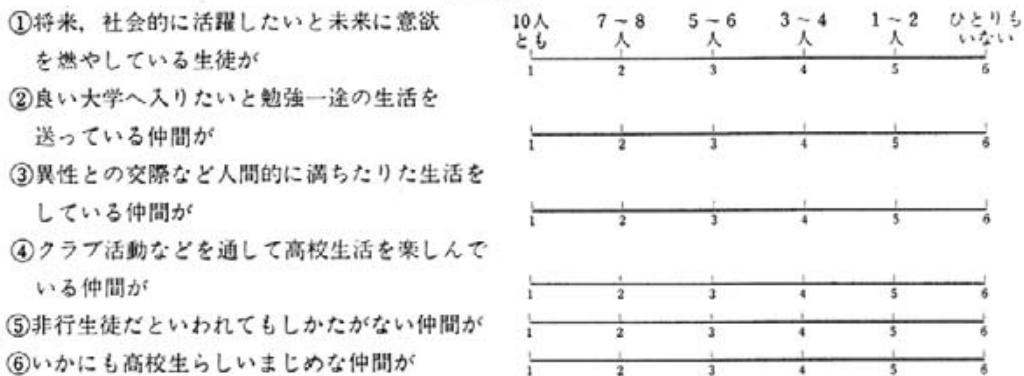
17 一口にいうと、あなたは今の高校の生徒であることに誇りを持っていますか。



IV もう少し高校での気持ちをお尋ねします。

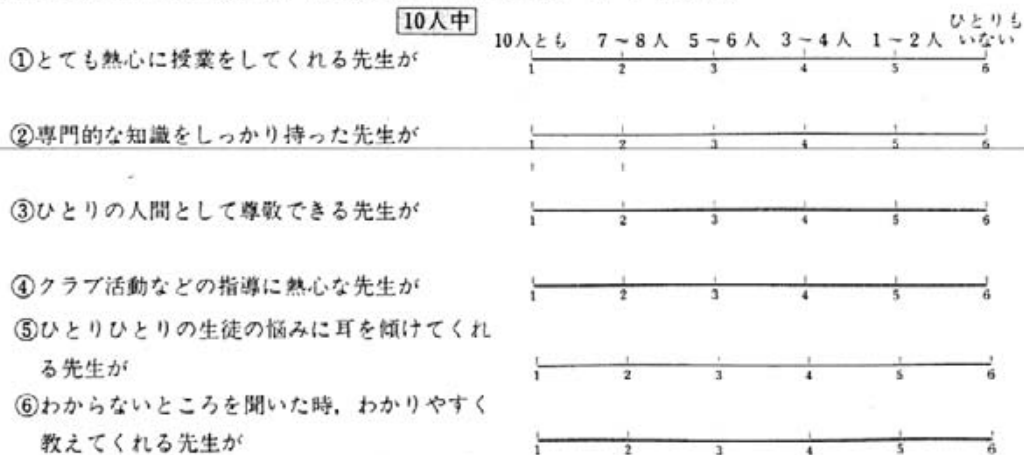
18 あなたの高校には、次のような友だちがどれくらいいますか。

10人中

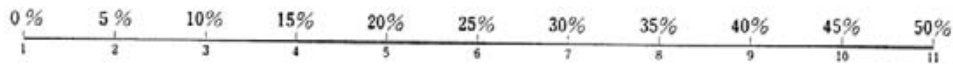


19 それではあなたの学校には、次のような先生がどのくらいいますか。

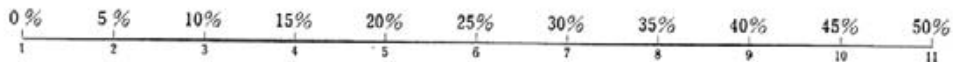
10人中



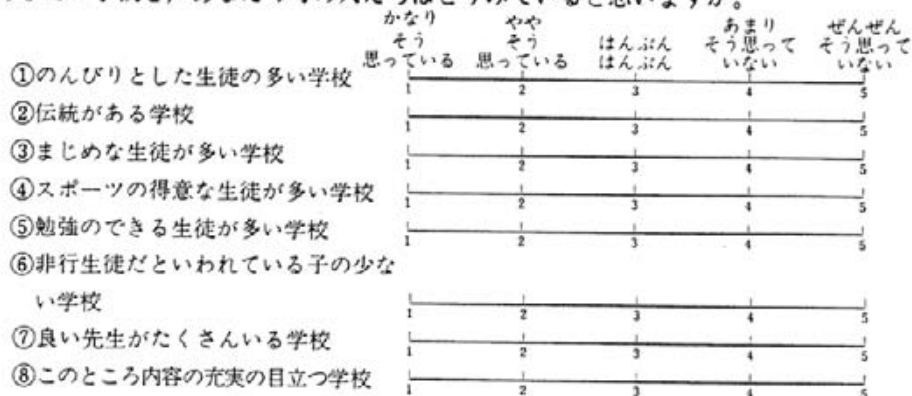
- 20 ① それではあなたの学校の生徒が全員いわゆる一流大学（東大や京大など）を受験したとしたら、現役でどの位入学できると思いますか。



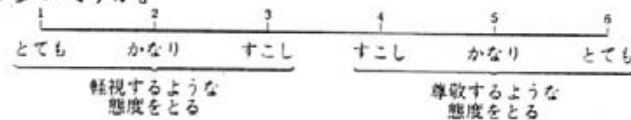
- ② それでは一浪してがんばったらどれ位の人が入学できると思いますか。



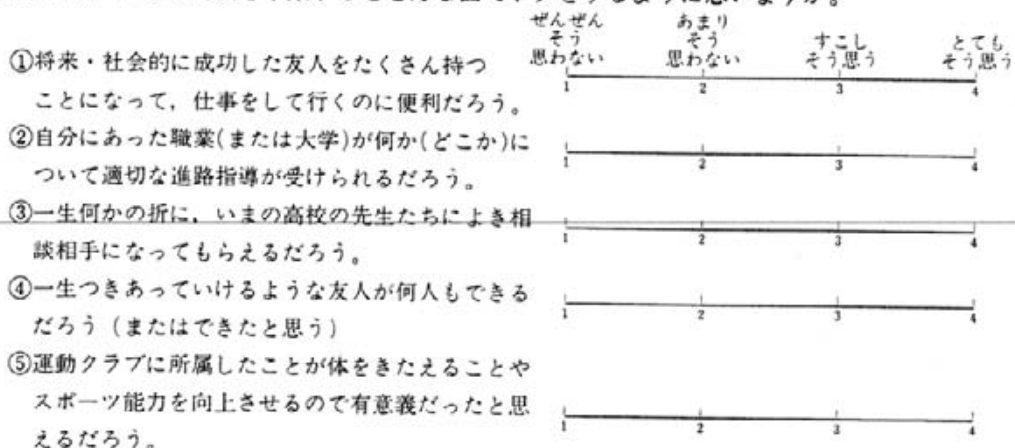
- 21 あなたの学校を、あなたの町の人たちはどうみていると思いますか。



- 22 あなたの地域の人々はあなたが現在の高校の生徒だということがわかると、どんな態度をとることが多いですか。



- 23 あなたは、いまの高校を卒業するとどんな面でトクをするように思いますか。



(運動部にはいない、又ははいたことのない人は番号⑤に大きく×をつけて、次の質問にすすんでください。)

- ⑥いまの高校を出ると、世間から多少尊敬の目で見てもらえるだろう。
- ⑦卒業して社会に出ると、いまの高校の先輩(卒業生)が何かにつけて助けてくれたり、便宜をはかってくれたりするだろう。
- ⑧高度の学力が身につくので一流大学へもわりと楽に入れるだろう。
- ⑨卒業後もずっと後輩とのつながりができるだろう。
- ⑩いまの高校の校風が身について、それが自分の人格形成にプラスするだろう。
- ⑪やる気のある友人に感化されて、まじめでよく勉強することができるだろう。(またはできたと思う。)
- ⑫楽しい高校生活が送れたことが、一生よい思い出になるだろう。
- ⑬苦しい高校生活が、自分に忍耐力を育ててくれることになるだろう。
- ⑭内容はともかく高卒の資格がもらえるだけで意味があるだろう。
- ⑮中学を卒業してすぐ就職するよりは、3年間高校生活をエンジョイできることがプラスになるだろう。

ぜんぜん そう思わない	あまり そう思わない	すこし そう思う	とても そう思う
1	2	3	4

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

1	2	3	4
---	---	---	---

V. 最後にあなたのことをお尋ねします。

㉔ 次のような気持ちがあったことがありますか。

この2~3ヶ月の間で

- ①今日は学校へ行きたくない。
- ②私は優秀であると人から思われたい。
- ③私は人の役に立つ人間だと思われたい。
- ④自分の気持ちをわかってくれる友だちがいなくてさみしい。
- ⑤自分は意志の弱い人間だと思う。
- ⑥私は、頼りになる人間だと人から思われたい。
- ⑦私は、先生から関心を持たれていない。
- ⑧私は、友だちの中で人気者になりたい。
- ⑨いっそのことどこか遠くへ行ってしまうたい。

1度も ない	1~2度 ある	何回か ある	ときどき そう思った	わりとよく そう思っている	いつも そう思っている
1	2	3	4	5	6

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

- 25 「なりたい」あるいは「なりたくない」は別として、一生懸命にがんばったらあなたは、次のような職業についてちゃんとやっていく能力があると思いますか。あると思うものに○をつけてください。(○はひとつもなくとも、またたくさんあってもかまいません。)

- | | | |
|---------|---------|-------------|
| 1. 医者 | 2. 弁護士 | 3. 高級官僚 |
| 4. 大学教授 | 5. 国会議員 | 6. 大きな会社の社長 |

- 26 あなたの高校を出てからの進路は、たぶんどうなりそうですか。

1. 卒業後すぐにつとめることになりそうだ。
2. 卒業後専修学校へ入ることになりそうだ。
3. 卒業後短大へ入ることになりそうだ。
4. 卒業後入試のやさしい大学へ入ることになりそうだ。
5. 卒業後入試のふつう程度にむずかしい大学へ入ることになりそうだ。
6. 卒業後入試のとてもむずかしい大学へ入ることになりそうだ。

- 27 これから一生懸命にがんばって勉強したら、あなたは次のような大学へ入れると思いますか。

- | | | | | | |
|---------------------|-------------|------------|--------------|----------------|----------------|
| | ぜったい
入れる | かなり
入れる | まあ入れる
だろう | たぶん入れ
ないと思う | とても入れ
ないと思う |
| 1. 入試のやややさしい大学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 入試のふつう位のむずかしさの大学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 入試のとてもむずかしい大学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- 28 大きくなったら、あなたはどんな仕事につきたいと思っていますか。具体的につきたい仕事を書いてください。

長い間どうもありがとうございました。